



第 2 章
法人報告
事業報告

2020年度けいじゅヘルスケアシステム方針

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 恵寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

戦後生まれの団塊の世代が高齢者の主となる。それに伴い価値観の変化と多様性も大きくなる。個別対応・プライバシーを求める時代となっていくだろう。これらに対応するため、これまで通りの画一的な仕事のやり方から洗練された仕事のやり方に変えていかねばならない。われわれはルーチン業務を見直し、さらにサービスに創意工夫を加えねばならない。特に、管理者においてはルーチン業務に長けるだけではなく、創意工夫とその内容の進捗管理をコミットせねばならない。

ここで、3つの視点を提唱する。

- 今行っているサービス（説明、診療内容、手技、お世話（介助・介護）など）は、自分や大切な家族に提供しても納得できるものか？
 - すべての仕事内容を胸を張って説明し公開できるか？
 - 日頃の判断は社会の道義に則るものか？
- …今一度全職員がこれを反芻することで次に取り組むべき点がみえてくるに違いない。そこで、

『一步前へ！』

である。この時代において立ち止まることは悪である。身の回り当たり前から見直そう。

全職員が一步以上前へ出るだけで、われわれの組織は他の追従を許さないほど先に行くことができるのである。

さらに、グループ全体として国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）を宣言し、その内容を前へ進めることで、これまで以上の社会貢献、地域貢献を打ち出していきたい。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



TQM発表大会（董仙会）

前期 第20回 2020年9月25日、29日、10月1日 オンライン開催

大会1日目 業務の視点、学習と成長の視点「ルーチン業務の再評価、洗練された仕事のやり方」

部署	テーマ
1位 恵寿金沢病院 臨床検査課 本部 総務部	臨床検査課における業務効率化の試み～生化学業務編～ 人事マスターの刷新
本部 生活支援部 めぐみ 本院 事務部	新規顧客獲得に向けて、選ばれる事業所になるために 事務部キャリアプランの作成

大会2日目 財務の視点、顧客の視点「生産性増、顧客・職員満足度 100%」

部署	テーマ
本院 薬剤課、4西、5-3、透析、主任、医療安全	持参薬管理のシンプル化
1位 本院 看護部、サービス課、秘書課、医事課 本院 手術センター	入院時における書類並びに手続の簡略化 患者入室方法の変更による上質なサービスの提供～手術室への入室スタイルの変更～
本院 リハビリテーションセンター 本院 5-5、5東、3-3、医療福祉相談課	入院患者の訪問リハ紹介を推進し、より質の高い退院支援を目指す アドバンス・ケア・プランニングへの取り組み

大会3日目 業務の視点「質の向上、新サービス創出」

部署	テーマ
本院 内視鏡課	安心・安全な内視鏡検査を提供するために～培養検査への取り組み～
恵寿金沢病院 2・3階病棟看護師、薬剤師、化学療法認定看護師、管理課	多様化する抗がん剤治療に対応するために～ケモファイル作成の取り組み～
1位 本院 放射線課	整形外科オーダー代行入力業務の共同運用に向けて (外来看護師とのタスクシェア)
本院 健康管理センター	新検診メニューの導入
本院 臨床検査課	採血室業務における新たな取り組み

後期 第21回 2021年3月3日、4日、10日 オンライン開催

大会1日目「顧客満足度100%」

部署	テーマ
恵寿鳩ヶ丘	さらなるノーリフティング介護の定着
本院 看護部	PXサービスを患者中心の介護サービスにつなげる
1位 けいじゅ一本杉	自分が受けたいサービスの創意工夫（新サービスの創出）
恵寿みおや	自分や家族が受けたいサービスを模索する～利用者の背景を知ろう～
恵寿金沢病院 看護部、リハビリテーション科、臨床栄養課	栄養サポートチーム発足へ向けた取り組みと効果

大会2日目「新サービス創出・ブランディング（信頼の証）」

部署	テーマ
本院 主任チーム、5病棟4階、リハビリ、医療安全管理センター	ADLの低下をきたさない（～入院によってADL低下が引き金にならない～）
恵寿金沢病院 放射線課	鎮痙剤を使わない胃透視検査へ
本院 地域連携課、サービス課、医療秘書課、医事課他	一步前へ！地域住民へ「かかりつけ医」を推奨～納得できる病診連携で紹介率・逆紹介率増！
1位 いこい	「Foot活」と「歩かん会」のマッチングによるモチベーションアップ
和光苑	在宅復帰を目指す施設としても一歩
鶴友苑	利用者の変化を早期に発見・利用者の個性を理解する

大会3日目「生産性増・ルーチン業務の再評価」

部署	テーマ
恵寿金沢病院 2階病棟	化学療法目的の集中入院日の調整
本部 財務部 経理課・資財課	RPA導入と効果
本院 臨床工学課	透析装置システム遠隔監視サービス導入におけるトラブル迅速対応の試み
1位 ほのぼの	信頼される介護技術の提供～見える化された介護マニュアルへの改定～
本院 医事課、医療秘書課、地域連携課、サービスセンター	定型業務の作業分解とRPAの活用とデータ分析

事例研究大会（徳充会）

大会テーマ：一步前へ～新たな時代に沿った取り組み～

所属	発表者	テーマ
青山彩光苑 リハビリテーションセンター	佐竹 綾乃	楽しい！この仕事、自分に合っている。 ～訓練プログラムの進化で得たもの～
	宮本 あい	コミュニケーションを通じて～人との触れ合いの大切さ～
さいこうえん障害者就業・ 生活支援センター	越田 美喜子	家庭と教育と福祉の連携～障害児の特性を理解する～
青山彩光苑 ライフサポートセンター	井本 菜智	ニーズの展開～歩く事で得た新たな喜び～
	坂下 莉緒	立位能力再獲得を目指して
	山下 恵理	入浴の取り組みについて～入浴調整に携わり～
	山本 韶季	信頼関係の構築
	田尻 知佳子	在宅生活から施設入所生活へ 環境の変化に寄り添う
青山彩光苑 穴水ライフサポートセンター	岡田 理華、坂口 奈保美	口腔ケア委員会での取り組み
	山岸 美由紀	転倒事故を繰り返さない為の取り組み
	新谷 京太	リモートを通じてのスポーツ～交流が持てるように～
	大道 一夫	一感染症対応下における通所サービス事業の実際～
	竹内 建人	スムーズに伝えたい！～伝わらないのはもう嫌だ～
青山彩光苑 ワークセンター田鶴浜	一花 司、細木 俊逸	障害者週間イベント2020～コロナ禍における取り組み～
石川県精育園	垣内 成都、法岡 敬夫、柄木 和美、小泉 利江	利用者の安心への取り組み～2名の利用者に行ったささやかな支援～
	高城 英隆、柄木 和美、吉川 美穂、村田 和由、鎧 篤志、 馬場 幸子、高島 直大	コロナ禍における支援のあり方について～行事部会の取り組み～
	黒詰 好美、土場 悅子、山本 徹、小林 禎弥、水端 郁枝	みんなの思いをカルタにのせて
	森本 郁、吉川 美穂、大竹 貴子、中道 菜穂子、 浜谷 ふみ子	コロナ禍における外出支援のあり方
	南方 貴代美、表 晃一、町中 可織、黒詰 好美	オリゴ糖で腸快調！～下剤に頼らない排便を目指して～
	表 晃一、佐藤 禎紀、石原 智幸、徳田 透、高島直大	根拠のある支援を目指して ～アセスメント、環境整備、個別課題の提供～
	山田 美咲	コロナ禍での看取りを行って～面会制限のある中での家族との関わり～
エレガンテなぎの浦	順毛 沙弥香、谷口 ひとみ	入浴拒否がある利用者へのアプローチ～GoTo！にゅ～よ～く！～
	赤尾 誠、前澤 小百合、山田 薫、河原 ふさ子、廣瀬 明子	令和2年度グループ支援～変化するレクリエーション方法～
	達元 希、向山 亜友美、西尾 翔、坂口 詩織	ショートステイ荷物チェック～荷物チェックアプリを導入して～
	中田 智美、三野 しのぶ、藤井 真紀、堀 雅季、受川 裕則、 山田 紀代子	移乗グループの取り組み2020～一步前へ～
	藤井 恒平、大畠 博美、藤井 真紀	ティーサービスでのFoot活プロジェクト～積極的な運動の参加を目指して～
	畠 幸恵、柿島 栄美子	心と体にうるおいを！！～脱水予防のススメ～
	北原 はるみ	夢実現プロジェクト～コロナ禍でできること～
もみの木苑	柿島 善浩、亀井 真巳、小林 美和、水谷 織惠	まんぶく大作戦「つくる」支援～利用者の意欲向上を実現するために～
	吉田 摩紀、井上 清美、赤坂 さおり	まんぶく(万福)大作戦～新たな余暇活動を支援して～
ふれあいの里	出村 陽子、江頭 沙織、甲谷 一美、久保 久美子	石川県ウォークラリー“歩こう会ね”～外出支援を通して～
	曾我 百華、刀祢 千恵、谷口 由美子、西川 繋子、 青葉 幸子	Let's 脳トレ～認知症予防を“楽しみ”に～
ローレルハイツ恵寿	石黒 美咲希、久保 るみ子、山中 麻緒、清水 潤智	秋の大運動会を通して
	竹内 美香子	夫婦で寄り添いながらの生活
	中川 昂也	一步前へ！取り戻そうみんなの笑顔～イルミネーション設備準備～
本部事務局	川北 良太、松本 美華、小石 佳奈	業務効率化と生産性の向上

第2章 法人方針・事業報告

新聞掲載（董仙会）

日付	内容	掲載媒体
2020.4.2	新入職員 地域貢献へ決意 / 新任の医師ら抱負	北國新聞 / 北陸中日新聞
2020.4.2	職員向け健保組合 七尾・董仙会が設立	北陸中日新聞
2020.4.8	恵寿総合病院 電話診療を開始	北陸中日新聞
2020.4.9	電話での再診察 利用を呼び掛け	北國新聞
2020.4.26	病院にエールの手紙 七尾東部中生が送る / 病院に激励の手紙	北國新聞 / 北陸中日新聞
2020.6.4	初診患者 スマホで問診 / スマホ、PCで事前問診	北國新聞 / 北陸中日新聞
2020.7.2	一本杉カフェ再開 正しい手洗い学ぶ / 感染予防学び 久々の交流	北國新聞 / 北陸中日新聞
2020.7.4	面会 制限を設け再開 / 入館・面会の制限 6日から一部緩和	北國新聞 / 北陸中日新聞
2020.8.22	オンラインで出前授業 / オンラインで知る 医療職	北國新聞 / 北陸中日新聞
2020.8.26	肺がん検診 被ばく量10分の1に	北國新聞
2020.10.10	適正な歩行 点数で評価 七尾・恵寿病院 北陸初の機器導入	北國新聞
2020.10.17	恵寿総合病院に発熱外来 一般患者と分け「安心を」	北國新聞
2020.10.18	歩行分析→ぴったりな治療 システム本格導入	北陸中日新聞
2020.10.24	新採職員がマナー学ぶ	北國新聞
2020.10.31	医療職の魅力をオンラインで紹介	北國新聞
2020.11.14	オンラインでパパママクラス	北國新聞
2020.12.2	青や白癒やしの光	北國新聞
2020.12.3	ツリーや汽車輝く	北陸中日新聞
2020.12.17	わがまちの偉人 高度な医療を能登に 神野正隣	北陸中日新聞
2020.12.19	医療職の魅力紹介	北國新聞
2021.1.6	地域医療に貢献 新年互礼会で誓う	北國新聞
2021.1.8	恵寿総合病院など オンライン互礼会	北陸中日新聞
2021.1.9	初の外国人実習生 / 実習生受け入れ 宗教に配慮	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.1.23	特殊詐欺被害防止 コンビニに感謝状	北國新聞
2021.1.23	インドネシア実習生向けに 施設にイスラム祈禱室	北國新聞
2021.1.24	詐欺防いだ声掛け コンビニに感謝状	北陸中日新聞
2021.2.9	iPadで健康サービス	北國新聞
2021.2.12	ハート型 LED彩る / バレンタイン仕様 イルミ	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.2.13	医療、観光で中国人誘客	北國新聞
2021.2.20	検診付き観光 可能性を探る	北陸中日新聞
2021.2.25	iPadで健康支援 AI問診や講座	日本経済新聞
2021.2.25	iPad通じ 健康後押し	北陸中日新聞
2021.3.5	カルテ閲覧ウェブで完結	北國新聞
2021.3.28	がん診断装置を更新 識別能力2倍に / がん検査装置を更新	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.3.31	採用者最多の75人が研修	北陸中日新聞

新聞掲載（徳充会）

日付	内容	掲載媒体
2020.4.25	【ふれあいの里】青柏祭・でか山塗り絵を募集 七尾市の七彩の会	北國新聞
2020.6.2	【ふれあいの里】七色美術展 塗り絵コンクール 展示	北國新聞
2020.9.26	【精育園】新型コロナウィルス対策 穴水で予防指導	北陸中日新聞
2020.10.22	【精育園】精育園祭	北陸中日新聞
2020.12.2	【ローレルハイツ恵寿】イルミネーション①	北國新聞
2020.12.3	【ローレルハイツ恵寿】イルミネーション①	北陸中日新聞
2020.12.27	【青山彩光苑】障害者週間イベント オンライン交流	北陸中日新聞
2021.1.9	【けいじゅヘルスケアシステム】外国人実習生受入れ	北國新聞 / 北陸中日新聞
2021.2.11	【ローレルハイツ恵寿】イルミネーション②	北國新聞
2021.2.11	【徳充会】無事故無違反で表彰	北國新聞
2021.2.12	【ローレルハイツ恵寿】イルミネーション②	北陸中日新聞
2021.2.14	【徳充会】無事故無違反で表彰	北陸中日新聞

来訪者一覧（董仙会）

日付	見学者	見学内容
2020.8.21	石川県立七尾高等学校 34名（オンライン）	医療職の紹介
2020.10.13	社会医療法人聖医会 理事長他、4名（オンライン）	給食システム
2020.10.30	石川県立門前高等学校 30名（オンライン）	医療・介護職の紹介
2020.12.17	医療法人社団久英会 理事長他、8名（オンライン）	けいじゅヘルスケアシステム
2020.12.18	石川県立羽咋高等学校 34名（オンライン）	医療職の紹介

来訪者一覧（徳充会）

日付	見学者	見学内容
2020.6.4	国際ソロプチミスト能登	青山彩光苑 利用者交流

董仙会中期計画 2018-2020 (2018年策定)

■ 繼続的基本方針

法人が社会に選ばれ続けるために、「石川県と言えば恵寿である」と全国から評価される法人を創ってきた。しかし、そのことを恵寿の膝下である地域住民に理解されているだろうか？その前に職員は理解しているのだろうか？職員は、恵寿フィロソフィに則り素晴らしい恵寿、一流の恵寿となるために常に創造して欲しい。そして新たな恵寿ブランドを創って行かなければならない。

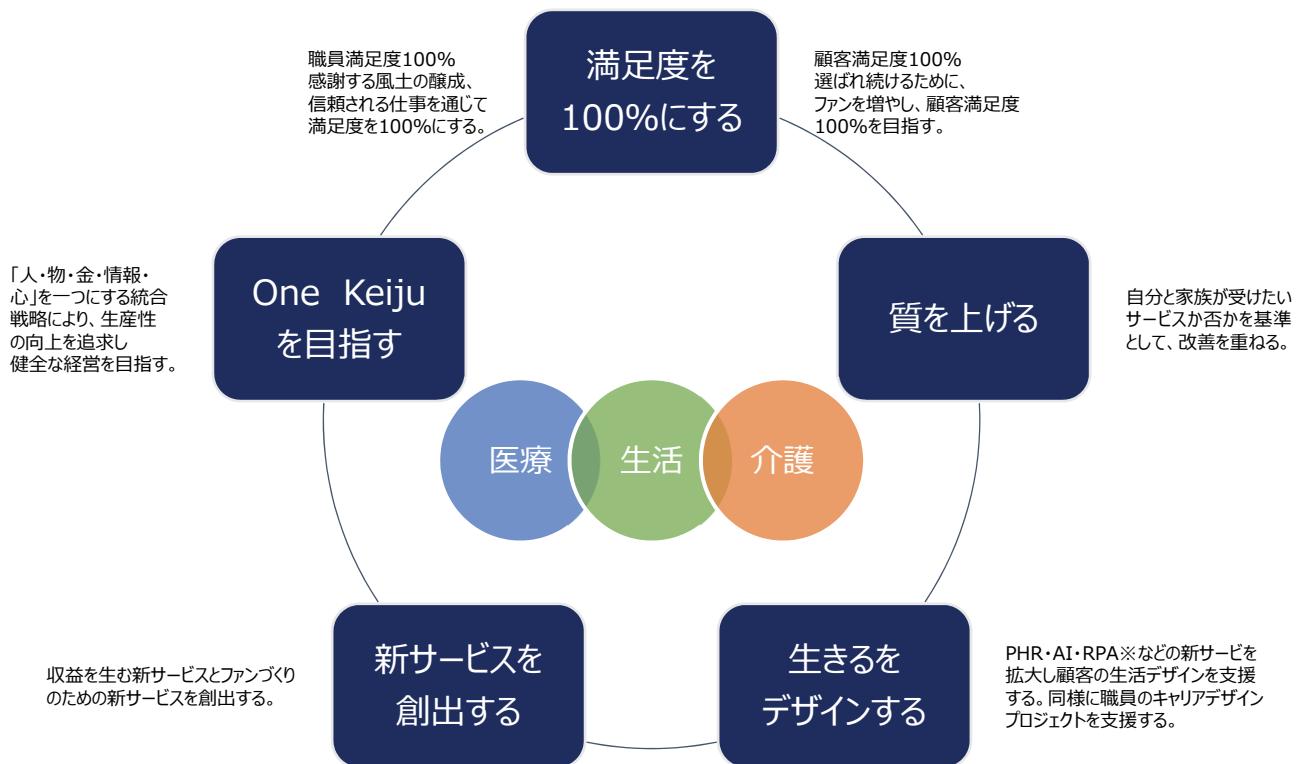
□ 繼続的基本方針を達成するための基本戦略

【チャレンジ精神を持ち常に創造する】

今、顧客の価値観が変わっている。これに対応して私たちは新しい価値を見出していくなければならない。かかりたい病院、家族を利用させたい施設を創り出すことに邁進しなければならない。今までのサービスを全く新しいものに作り直すくらいの気概が必要である。

【恵寿ブランドの創出】（ブランディング）

法人は、これから ①満足度を100%にする ②One Keijuを目指す ③生きるをデザインする ④質を上げる ⑤新サービスを創出する以上を実現し、新たな恵寿ブランドを創って行く。



PHR*とは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Record)を示す。個人が、自らの生活の質(QOL)維持や向上を目的として、自らの生涯健康情報を収集・保存・活用する仕組み。董仙会ではMDV社の「カルテコ」を導入。

■ 法人のあるべき姿・顧客のあるべき流れ

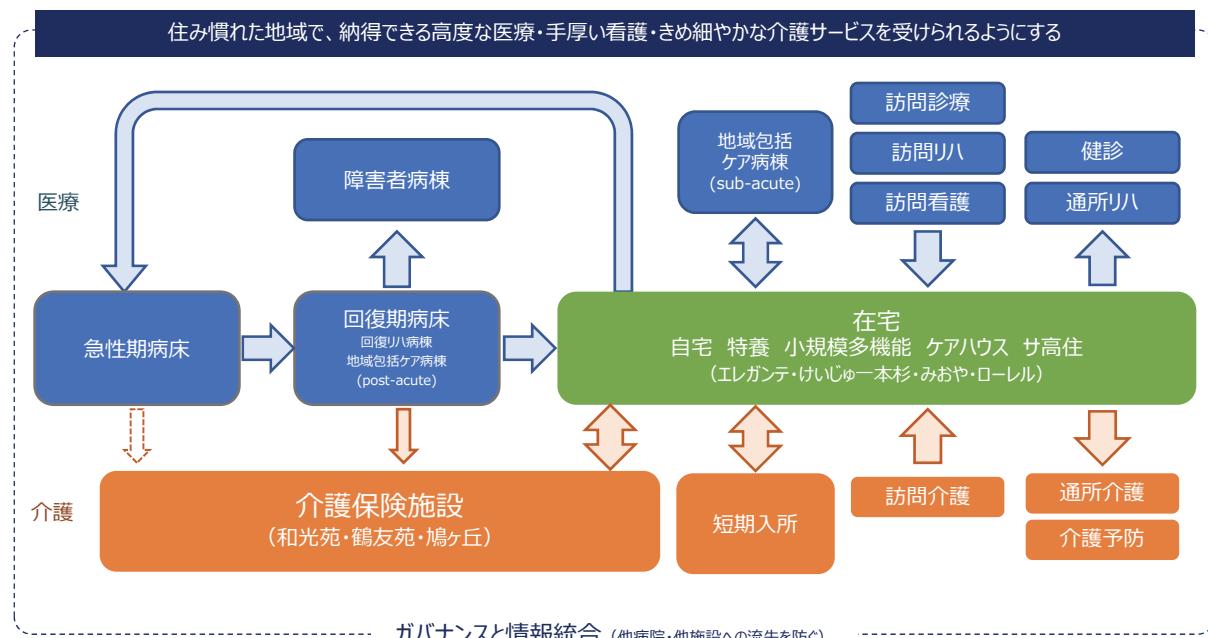
基本戦略、施策を達成する前提として、能登地域・金沢地域の方針・顧客のあるべき流れを図に示す。すべての職員が理解し、業務を遂行しなければならない。

□ 能登地区方針

住み慣れた地域で、納得できる高度な医療・手厚い看護・きめ細かな介護サービスを受けられるようにする。

職員は既存の施設・サービスを最大限に活用し顧客の流出を防ぎ、けいじゅヘルスケアシステム内で完結するようにガバナンスと情報統合を強化する。

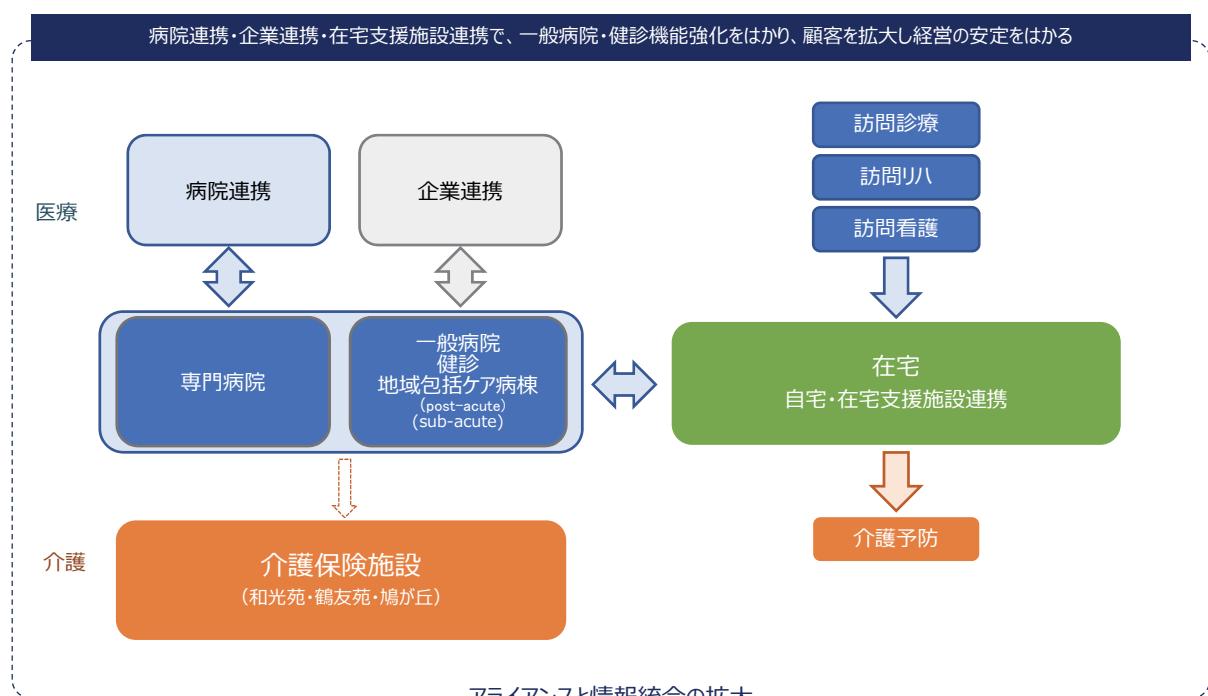
董仙会のあるべき姿（能登地区）



□ 金沢地区方針

病院連携・企業連携・在宅支援施設連携で、一般病院・健診機能強化をはかり、顧客を拡大し経営の安定をはかる。

董仙会のあるべき姿（金沢地区）



■ 継続的基本方針を実現する方法

継続的基本方針と、現状の姿（SWOT分析）のギャップを以下に示す。強みを活かし、弱みを補いながら3カ年で目指す将来像に到達することを目標とする。



■継続的基本方針の実施計画

2020年度までの3ヵ年実施計画を以下に示す。

初年度は主に改善・克服戦略、次年度は積極・差別化戦略を遂行し、3年後の目指す将来像を完成させる。

2018（改善・克服）

「創れ、恵寿バリュー！」

社会構造の変化への対応を見据え、職員と顧客が共有できる価値を創造する

恵寿式チーム医療の完成

職員満足度100%達成

データ経営の確立

高度医療・専門医療の強化

PHR事業の拡大

顧客に選ばれる仕組みづくり

他病院・施設への流出防止

競合事業者との戦略的な連携

二次医療圏外からの顧客獲得

戦略的リクルート

病院施設設備計画策定開始

One Keiju計画開始

2018

2019

2020

2020

「経営品質の高さ」

×

「顧客による社会的評価」 恵寿ブランド力の向上

①満足度を100%にする

②One Keijuをつくる

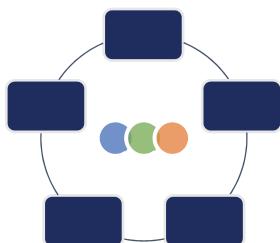
③生きるをデザインする

④質を上げる

⑤新サービスを創出する

上記5施策の完成

→「石川＝恵寿」の完成



2019（積極・差別化）

病院・施設の設備計画の完成

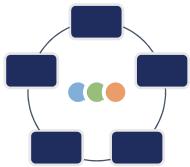
七尾+金沢 One Keiju（統合戦略）による経営資源の最大活用

顧客満足度100%達成

サービスの質の進化によるシェア拡大

産学連携コラボレーションによるサービス開発

■継続的基本方針 戦略目標



2020年度までに継続的基本方針を達成するための5施策

- ①満足度を100%にする ②One Keijuを目指す ③生きるをデザインする ④質を上げる
- ⑤新サービスを創出する に対する具体的な戦略目標例を示す

財務の視点

1. 顧客の生涯健康維持をサポート

リテンションマーケティングを行い既存利用者との結びつきを強めるとともに、新規利用者の獲得を行う

患者、利用者とのつながりを強化するためにPHRを拡充する

2. 将来にわたる事業の発展、地域への貢献

経営の健全性を維持するため、生産性を向上させ、医業収入の黒字化、医業外収入の増加を目指す

サービスの質で競合を超越し、金沢での拡大、能登での充実を図る。人件費率（医療、介護）の適正化を行う

顧客の視点

1. 顧客満足度100%

顧客の価値観の変化に則した魅力ある医療・介護施設群へとゼロからの転換を図り満足度100%を目指す

2. 職員満足度100%

職員の健康と幸せを築くために「健康経営×キャリアデザイン・プロジェクト」を推し進め満足度100%を目指す

3. 恵寿ブランドの創出

選ばれ続けるために、「七尾=恵寿」、「石川=恵寿」となるようなコーポレートアイデンティティ=ブランディングの完成を目指す

4. “恵寿式”地域包括ヘルスケアサービスの完成

徹底した顧客満足度向上のためにサービスをいつでも 安心して受けられるようにする

「どうすれば利用してもらえるのか」「継続的な利用をどうやって実現するか」をデザイン思考で完成させる

5. 専門技術・知識、現場力の蓄積 成長・やりがいの実感

医師・看護師・その他医療技術職の専門性を発揮するためにタスクシフティングやキャリアチェンジを推進する」

業務プロセスの視点

1. 顧客参画型恵寿式チーム医療の完成

既存サービス + 患者利用者の参画、職員のお互い様意識を醸成（多様性理解）し合う環境作りを行う

2. 事業競争力の強化・差別化

急性期機能・高度医療（救急・がん・脳卒中・心臓・呼吸器外科・整形外科・健診）を強化するために医師の招聘を（3年後100名体制）行い患者・利用者の流出を防ぐ

3. 経営資源の効果的・効率的な運用

経営資源「人・物・金・情報・心」の効率的な運用を行い、生産性の向上を目指す
限られた人的資源を最大限に活かす統合戦略を行い遠隔診療・テレワークなどの働き方改革を行う

4. Only1、No1領域の確立

恵寿の絶対的な強みである「医療介護統合電子カルテ」、「セントラルキッチン」、「コールセンター」、「楽のり君」、「ユニバーサル外来」、「産科」、「家庭医療」、「無痛分娩」、「内視鏡」、「血液内科」、「乳腺外科」、「呼吸器内科」、「心臓血管外科」、「糖尿病内科」、「回復期リハビリテーション」を確立し収益事業化する

5. データ経営の確立・PDCA遂行

原価管理、DPCベンチマーク、Quality Indicatorなどデータに基づく経営を確立する

6. 将来への事業基盤の構築

老健施設、金沢病院の改修計画、病床・病棟の再編・医療機器、IT投資計画等BCMとして病院・施設設備計画を完成させる

7. 収益を生むイノベーションの創出

企業・大学・研究機関とのAI、IoTを利活用した「既存サービス×医療」コラボレーションによる収益を生む新たなサービス開発を行う

学習と成長の視点

1. 事業環境の精緻な分析と情報共有

競合環境やマーケットシェアを分析し、既存顧客の流出防止と新規獲得を行う

2. BSC目標管理の徹底革新とチャレンジ精神の醸成

全ての職員が、法人のミッション・ビジョン・戦略テーマを納得・理解しBSCの定着とPDCAを推進する
職員自身が自発的に考え行動することを目指す

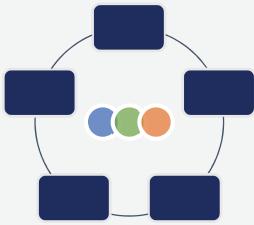
3. 戦略的リクルート・連携・協働

戦略的なブランディング、広報による優秀な医師・看護師・介護職獲得のためのリクルート活動を行う
競合事業者との（急性期リハビリ、介護事業者、小児科、婦人科、精神、歯科）Win-Winな連携を行う

4. 人材マネジメントの強化

キャリアビジョンの提示、全体最適を図る人材育成を組織を挙げて取り組み次世代リーダーを育成する

■2018年度 董仙会戦略マップ

ミッション	<p>いつでも、誰でも、たやすく、安心して、診療を受けられる病院にする【創業精神】 信頼の心 思いやりの心 健全な経営 職員の健康と幸せ【基本理念】 先端医療から福祉まで「生きる」を応援します【ミッション】 恵寿フィロソフィ【価値観・行動規範】</p>
継続的基本方針	 <ul style="list-style-type: none">①満足度を100%にする②One Keijuを目指す③生きるをデザインする④質を上げる⑤新サービスを創出する
理事長 単年度方針 【戦略テーマ】	<p>2018年度（平成30年度）董仙会・徳充会 理事長方針</p> <p>惑星直列と呼ばれる大きな変革の年になる。4月にはトリプル計画といわれる地域医療構想を含む「第7次医療計画」「第3期医療費適正化計画」「第7期介護保険事業計画」の策定、またトリプル改定といわれる「診療報酬」「介護保険報酬」「障害福祉サービス等報酬」の改定、さらには新専門医制度が始まり、働き方改革の議論が佳境を迎える。これらに、慢心することなく丁寧に適応、対応したい。</p> <p>それ以上に、この先の2020年のポストオリンピック・パラリンピックの社会構造の変化への対応を見据えねばならない。29年度方針であったQOL経営を継続しながら、共有できる価値を創り出し、定義していかねばならない。</p> <p>『創れ！恵寿バリュー』</p> <p>職員間、部署間はもとより、患者・利用者と、そして地域社会と共有できる価値を創ろう。 価値観は時代とともに変化する。医療・介護・福祉のあり方、生活、人生（誕生から終末期）、満足度、働き方など、それぞれは過去のものを踏襲するだけではならない。また、お仕着せの価値観であってはならない。 われわれは、われわれが誇りを持てる、われわれの価値を創造し続けなければならない。</p>

■ 2018-2020董仙会中期計画 報告

2018年单年度方針「創れ、恵寿バリュー！」を掲げ、改善・克服戦略の年とした。BSCの学習と浸透が図られ、目標に向かって一致団結する気風が定着した。価値観が多様になる社会を見据え、PHR導入など新しい価値の創造を模索した。

2019年单年度方針「生産性を上げよ！」を掲げ、積極・差別化戦略の年とした。BSCによる業務改善が進み、生産性を上げた。一致団結が大幅黒字決算という成果として現れた。

2020年单年度方針「一步前に！」を掲げ、「経営品質の高さ」×「顧客による社会的評価」恵寿ブランド力向上の年とした。コロナ禍により、オンライン会議やTeams活用による業務改善が進み、大きな一步を踏み出した。3年に渡る黒字決算（予測）として経営品質の向上が見られたが、受診控えなどコロナ禍の影響が大きく、慰労金・補助金に支えられた。

□ 2018-2020主な出来事

2018年	2月	健康経営優良法人-ホワイト500-認定 2019,2020年も認定継続（100位以内/約4,000社）
	5月	介護療養型老人保健施設 恵寿鳩ヶ丘を介護医療院に転換（石川県初）
	10月	国際病院連盟最高位賞 特別賞を「恵寿式地域包括ヘルスケアサービス」として受賞
	12月	生活支援の拠点として、ベンリー七尾店開店（フランチャイズ方式）
2019年	4月	本院第六代病院長 鎌田徹（乳腺外科科長）就任
	7月	AI問診システムを導入（本院）
2020年	3月	新型コロナ感染予防として、PPE・機器購入、オンライン会議・面会等開始
	4月	健康経営のさらなる展開のため「けいじゅ健康保険組合」を設立、電話診療、処方箋発行を開始
	5月	地域医療支援病院（本院）承認、オンライン採用面接開始
	6月	けいじゅヘルスケアシステムのウェブサイトを開設[図1]、来院前AI問診を開始（本院）
	8月	金沢病院の電子カルテバージョンアップ完了、職員共通のポータルサイト構築
	11月	発熱外来を設置（本館横駐車場）

戦略		結果
改善・克服戦略	恵寿式チーム医療の完成	・PET-CT更新 ・医療介護統合電子カルテの仮想サーバ入替(HCI)、バージョンアップ完了 ・" のBCP（国内3カ所保管 SSI・MDV・千年カルテ）
	高度医療・専門医療の強化	・感染防止、検査等の機器購入、駐車場に発熱外来を設置（コロナ禍対応）
	PHR事業の拡大	・PHR・AI問診の拡大
	職員満足度100%	・国際病院連盟 最高位賞特別賞を受賞
	データ経営の確立	・永く働ける環境づくりを目指し、定年制廃止・業務手当充実を目指す ・健康経営優良法人ホワイト500に上位認定（2018-2020）
	戦略的リクルート	・けいじゅ健康保険組合を設立 ・データ経営チーム設立・活動を開始 ・オンライン採用面接・内定者の集い開始
積極・差別化戦略	顧客満足度100%	・1患者1IDを活用し、介護・医療の共通情報提供書で情報共有を進化
	One Kejuによる経営資源の最大活用	・入院・入所セット導入を拡大、オムツセットも一部導入 ・Office365によりTeams・オンライン利用が進化
	サービスの質進化によるシェア拡大	・職員共通ポータルサイトを構築 ・あるべき姿の共有を図り、「恵寿まるわかりブック」・各施設リーフレット作成
	産学連携によるサービス開発	・生活支援事業の強化 ベンリー七尾店開店 ・恵寿SDGsの明確化 ・歩行の質向上「Foot活プロジェクト」を開始 ・恵寿ブランド商品『Foot活サンダル』（歩行の質改善効果） ・恵寿ブランド商品『溶けない脳活アイス』（嚥下機能低下対策）
「経営品質の高さ」 × 「顧客による社会的評価」	満足度100% One Keju 新サービスを創出する 生きるをデザインする 質を上げる	・改善・克服戦略結果 ・積極・差別化戦略結果 ・恵寿ブランドの向上

董仙会本部 事務管理統括部門

董仙会本部

■常務理事 ■本部長
神野 厚美 進藤 浩美

■2020年度のトピックス

パンデミック、新型コロナ対応を全部署上げて実施した。

部署・視点	対応
本部	密防止といざというときの体制づくりのため2ヶ所に分かれて業務することを指示。
財務	資金調達（交付金・補助金申請、WAM、銀行） 感染対応備品・物調達、恵寿アラート発信で収入確保、職員宿泊場所の備品整備
総務	慰労金等職員支給準備、各種規程・手当整備・申請業務、慰労金・ワクチン接種等委託業者の調整、コロナ病棟勤務者の宿泊場所確保
企画	感染予防対策の広報誌や動画を制作し、情報発信。BCM別冊換気を発刊。
情報	オンライン対応環境整備、デバイス準備
生活支援	コロナ病棟等感染予防ゾーン分け、アクリル板の設置。発熱外来、感染予防備蓄倉庫の設置。機械換気について、実態調査、安全性を確認。

■事業報告

- ① 職員が感染しても業務が持続できるように、2ヶ所に分かれて業務することを指示し、それが困難な場合には、アクリル板設置など環境を整備した。トピックスに記載したように、本来業務に加えてコロナ対策業務が加わった。
- ② 各病院、施設の収入が減る中、収入確保のため、恵寿アラートにて職員喚起し、各種交付金、補助金獲得に努めた。しかし、WAM、銀行などの資金調達も実施。
- ③ 本年の高額医療機器として、PET-CTを更新した。コロナ終息後に備え、医療・観光資源の開発もすすめた。
- ④ 健康経営を目指すために、けいじゅ健康保険組合を設立し、健康経営対策室と協働し、健康経営優良法人ホワイト500に4年連続認定された。
- ⑤ 本部、本院事務部と協働での監査を実施し、ISOを更新し、董仙会のSDGsをまとめた。
- ⑥ 本院ローソンは、朝7:00～夜21:00と継続可能な営業時間とした。外来・入院患者の利便性を高めるために、伸縮性のある病衣セットに見直し、新規にオムツセットを導入し、マチカフェ商品の充実、病棟ワゴンサービスを開始した。
- ⑦ 人生100年時代プロジェクト、全世代型の給与規程退職金規程等の変更準備をすすめた。

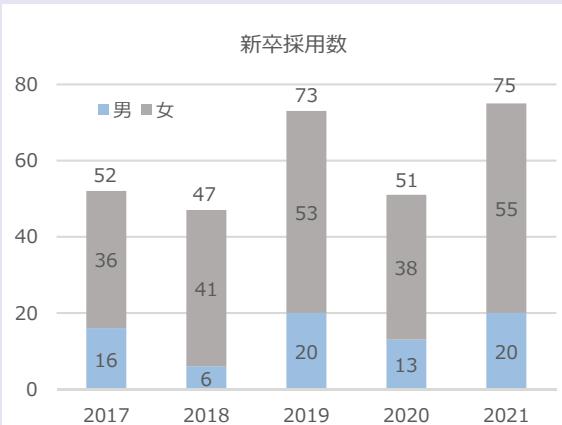
総務部

■部長

松田 久良

■2020年度のトピックス

2021年度の新卒の採用実績が75名と過去最高となった。本年度はコロナ禍の下、早期かつ積極的に電子DMやオンライン会社説明会に取り組んだことが奏功した。



■事業報告

- ① 職員のコロナ感染により、総務部機能に問題が生じないように、3病棟1階と6階で、生産性の悪い中で業務した。
- ② コロナ休暇、コロナ危険手当などコロナに対応した規程を整備し、運用した。また、慰労金、コロナワクチン接種手続きなど、委託企業との連携調整業務も実施した。
- ③ 人事ソフトへの移行入力、初めてのオンライン手続きなど生産性を上げるために下準備作業ボリュームが多くった。
- ④ 初めての外国人介護技能実習生を受け入れるための体制を確立した。コロナの影響で入国審査が長引いたが、2021年1月にインドネシア人1名を受け入れできた。
- ⑤ けいじゅ健康保険組合を設立し、その業務を兼務した。
- ⑥ 職員獲得のために、通年採用を行なっているため、毎月中途採用職員研修の実施で業務量が増えている。また、恵寿カムバックパスポートを導入した。その他、支度金も増額、職員紹介料も増額した。
- ⑦ 全世代にやさしい人生100年時代プロジェクトを推進し、昨年来検討していた定年制廃止導入にともなう問題点の対応、就業規則、給与規程、退職金支給規程について整備を継続している。

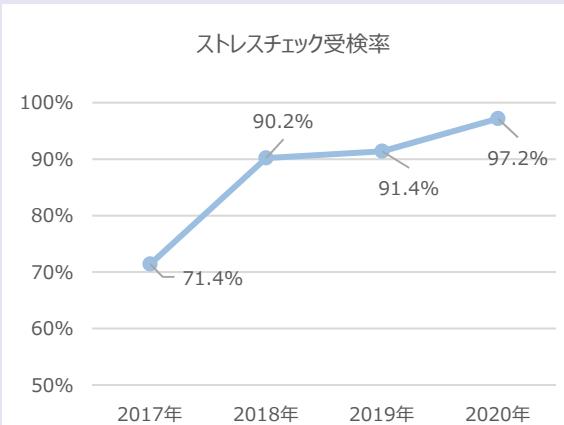
健康経営対策室

■室長

松田 久良

■2020年度のトピックス

ストレスチェックについては、事前の準備、職員への周知、受検状況の報告など受検率向上に向けた施策を行った結果、受検率は97.2%と昨年の91.4%より改善した。



■事業報告

- ① けいじゅ健康保険組合の立ち上げにあたり、申請手続、実務遂行両面において、バックアップし、2020年4月の設立にこぎつけた。
- ② けいじゅ健康保険組合と横断的な健康管理事業推進委員会を組織し、特定健康診査等実施計画などの職員の健康増進策について検討した。
- ③ 健康経営優良法人2021（大規模法人部門・ホワイト500）に申請して、4年連続認定を受けた。
- ④ コロナ禍において、スムーズな補助金受給申請や特病休暇（コロナ休暇）や休校休暇などの制度を創出するなど職員の生活面での支援に努めた。
- ⑤ ストレスチェックにおいては、受検率97.18%と過去最高の水準を記録した。また、恵寿こころの相談室の利用人数は延べ人数で13人となり、昨年度実績10人を上回った。
- ⑥ 月間残業時間30時間を超えた職員には、オンラインによる産業医面談を励行し、年間13回の実績があった。
- ⑦ 女性活躍推進法に基づく一般事業主の行動計画満了にともない、次期行動計画を策定し、県への届出を行った。

財務部

■部長

安井 智美

■ 2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業として、医療・介護ともに様々な支援事業が実施された。

事業内容

コロナ患者対応従事者慰労金
コロナ患者等入院医療機関設備整備
帰国者・接触者外来等設備整備
感染症検査機関等設備整備
コロナを疑う患者受入れのための救急・周産期・小児医療体制確保（設備整備等事業）（支援金支給事業）
インフル流行期に備えた発熱患者の外来診療・検査体制確保
インフル流行期におけるコロナ疑い患者を受け入れる 救急・周産期・小児医療機関体制確保
コロナ患者等入院受入医療機関緊急支援
石川県新型コロナウイルス感染症患者受入医療機関協力金 医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援
新型コロナウイルス感染症緊急包括支援（介護）

財務部 経理課

■課長

河合 隆志

■ 2020年度のトピックス

RPA導入に向け、業務の作業分解を実施した。

作業分解を実施した手順一覧

明細資財エクセルの作成手順

買掛金・未払金仕入帳転記手順

買掛金・未払金集計表繰越手順

買掛金・未払金集計表転記手順

MDC作成手順

■ 事業報告

- ① 給与振込・地方税納税を完全オンライン化し、生産性向上を図った。
- ② 第9回全国医療経営士実践研究大会・経営改善アカデミー（宮崎大学病院主催）にオンライン参加し、データ経営に向けて一步前進した。

■ 事業報告

① 感染対策物品

マスクなど感染対策の消耗品が世界中で不足した為、調達は大変困難であったが、代用品や使用方法の検討などにより欠品を防ぐことが出来た。大量の支援物資の受け入れ時は保管場所の確保に苦慮したが、備蓄倉庫を設置し今後に備える事とした。又、消耗品以外の機器なども現場の要望に応えられるよう、情報収集に努めた。

② コロナ交付金

交付金の種類が多く、対象施設（サービス）や対象経費の内容確認が非常に複雑で、なおかつ途中で申請方法や解釈の変更が発生したりと大変であったが、本院担当者と連携を密に取り確実に申請手続きを行った。

③ 分散勤務

感染対策として各課2チームに分かれ別々の場所で勤務を行った。情報共有や必要資料の確認などで生産性の低下は否めなかったが、BCPの実地訓練の側面もあり非常に貴重な体験でもあった。今後の勤務体制を考える上で参考になるものと考える。

財務部 資財課

■課長

池岡 一彦

■ 2020年度のトピックス



- ① 新型コロナによるPPE品不足下での、代替品の考案、安定供給を行った。
- ② PPE価格高騰下での購入価低減を図った。
- ③ 新型コロナ助成金申請を行った。
- ④ 備蓄倉庫建設、保管を行った。
- ⑤ 新入院セット導入・新スクラブ導入準備。
- ⑥ HOSPEXにオンラインで参加した。

企画部 企画課

■常務理事

神野 厚美

■部長

進藤 浩美

■ 2020年度のトピックス

新型コロナウイルス流行の影響で、例年通りのイベントや病院見学会の開催ができない中、新しい取り組みとしてオンライン見学会を企画した。2020年8月～2020年12月の期間内に計5件 110名を受け入れた。

日付 見学者

8/21 石川県立七尾高等学校（34名）

10/13 社会医療法人聖医会（4名）

10/30 石川県立門前高等学校（30名）

12/17 医療法人社団久英会（8名）

12/18 石川県立羽咋高等学校（34名）

■事業報告

- ① 2019年度の業績集を作成し、6月中旬に配布した。
- ② コロナ禍に対応した広報誌「恵寿」を年4回発行した。
- ③ マンスリーレター能登版、金沢版を毎月発行し、地域の医療機関等に配布した。
- ④ けいじゅヘルスケアシステムのコーポレートサイトを作成し、6月より公開を開始した。
- ⑤ 新型コロナウイルスにより中止していた一本杉Caféの再開にあたり、感染予防に配慮した企画・運営に協力した。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症の法人の取り組みを職員に周知するため、週2回のメール配信を行った。（2020年5月～8月 合計23回）
- ⑦ 地域の方々への案内や健康創出のため、「発熱外来の受診法」、「腰痛予防体操」をYouTubeで公開した。
- ⑧ マスコミ向けのプレスリリースを年間で27回行い、新聞掲載やテレビで取り上げてもらった。
- ⑨ ラジオななお「安心マイライフ」の内容企画とパーソナリティへの交渉を行い、44回放送した。
- ⑩ 本院医療情報ラウンジのサイネージで、動画やラジオななおなどのコンテンツを放送した。
- ⑪ 職員向けポータルサイトを最適化し、イベント情報やお知らせを職員に周知した。

情報部 情報管理課

■課長

小澤 竹夫

■ 2020年度のトピックス

今年度はコロナ禍対応として、法人内でTeamsやZoomなどのオンライン会議を行うためのインフラ整備を行った。また例年より多くのパソコンを購入し、オンライン用端末として各部署に配布し、オンライン会議の促進を図った。恵寿金沢病院では新版電子カルテ（Newtons'2）への切替を行った。

導入・更新したシステム一覧

新版電子カルテシステム（恵寿金沢病院）

無線アクセスポイント更新（恵寿総合病院）

リモートアクセストークン更新

千年カルテとの連携システム構築

端末の新設及び更新（デスクトップ100台、ノート100台）

■事業報告

- ① 恵寿金沢病院の電子カルテを旧版（Newton's）から新版（Newton's2）へのバージョンアップを行った。操作性や視認性が向上し、診療の生産性向上に繋がった。
- ② 無線アクセスポイントの更改に伴い、従来よりもパケット処理速度が向上した。それにより無線ノートパソコンのネットワーク遅延が更改前よりも減少した。
- ③ リモートアクセスに用いているトークンを更新した。またトークン本数も今年度は10本増やした。リモートアクセスは安全に院内システムにアクセスできるので、パンデミック対策に有効なシステムである。今後は医師だけでなくその他の職種にも使用できるような環境を整えていきたい。
- ④ 千年カルテに参画し今年度からデータのアップロードを開始した。医療情報の二次利用にも協力し、千年カルテDBによる医療研究の活用に貢献した。
- ⑤ 今年度は法人全体でデスクトップ100台、ノート100台の合わせて200台のパソコンの設置作業を行った。端末性能により生産性が大きく向上した。一部のノートパソコンはTeams、Zoomといったクラウドサービスを使用できるようにし、オンライン会議、打合せに使用可能にした。
- ⑥ 介護改定、オンライン資格認証などDXへの取組みを行った。

生活支援部 生活支援課

■課長

梅田 信一

■2020年度のトピックス

今年度は、新型コロナ感染症拡大予防業務を実施した。

感染予防対応業務一覧	
本部	感染予防機器、備品備蓄倉庫の設置 機械換気状況の確認、職員教育
全施設	フィルター清掃確認 アクリル板、車両内ビニールシートでのゾーニング 消毒清掃状況の確認と指導
本院	一般発熱外来、産婦人科用発熱外来 コロナ患者受入れ病棟の整備 ①防火扉のセンター解除 ②換気量設定変更 ③病室の鍵の付け替え ④陽性患者病室入口カーテンをビニールに変更 ⑤床にゾーニングテープ設置 ⑥ロッカー、ソファーベッド等備品搬入 コロナ病棟の整備
介護施設	コロナ患者発生時のゾーニング確認

■事業報告

- ① 2020年は、トピックスに記載する感染予防対応業務を大成有楽不動産、オリックス等のパートナー企業と共に実施した。また、菱機工業様に全施設の機械換気状況の確認と詳細な資料提供をいただいたので、企画部の協力の下、BCM機械換気別冊を刊行し、職員教育につなげることができた。
- ② FM業務（ファシリティマネジメント業務）は、各部署から申請の上がったものについて、委託企業様と対応した。補助金事業にて、和光苑・鳩ヶ丘の非常用発電機を更新した。本院の露天風呂の故障は課題として残った。
- ③ 清掃、5S業務も委託企業様の協力で実施したが、介護施設の浴室の天井カビについては、運用確認と対策が課題である。
- ④ ベンリー七尾店とめぐみの介護保険での住宅改修コラボができなかった。めぐみでは、初めて「めぐみフェア」を7月より月1回開催し、めぐみニュースも毎月継続的に発行できた。商品も感染予防対策グッズを職員に周知した。福祉用具レンタルステーションは、国より上限値、平均値がでたため、価格を見直した。ケアマネが利用者にすめやすい、ペット・手すり特別価格セットもつくり、2021年の運用に向けて準備した。

広報委員会

■委員長

進藤 浩美

■副委員長

神野 厚美

■2020年度のトピックス

本年は、特にコロナ対応について、広報活動を実行した。

媒体	内容
製作物	広報誌、マンスリーレター、各種パンフレット、HP、サイネージ、フラッグ、動画
メディア	ラジオななお、プレスリリース（発熱外来、備蓄倉庫、ローレルイルミネーション）

■事業報告

- ① ホームページに新型コロナウイルス対策についてまとめたページを作成した。目に留まりやすくするためにトップページにバナーを作成し、公開した。
- ② 新しく購入した機器や導入した事柄について、職員にメール・ポータルサイトで周知するとともに、プレスリリースでマスコミにも情報発信した。

けいじゅヘルスケアシステム給食戦略会議

■委員長

進藤 浩美

■副委員長

神野 厚美

■2020年度のトピックス

- ・真空包装機器4台購入
けいじゅデリカサプライセンター機器の故障対応として、今年度、検討に難渋したのが、真空包装機器であった。結果、ホシザキ製の真空包装機器を4台入れることとした。4台使用することにより、1台の負荷を軽減し、故障時のBCP対策としても、複数台対応がベストと考えられた。

■事業報告

- ① 6月まで、消毒液やマスク確保に苦慮した。介護施設でうがいと水分摂取コップの使い分けを徹底した。
- ② 給食職員の働き方改革のため冷凍弁当トライアルを実施し、今後の運用が可能であることを確認した。
- ③ 本院ライト食のロス率が多く、SDGs対策としてメニューを検討。職員へのスマートミールのテイクアウトを開始した。
- ④ アレルギー対応教育と運用変更を実施した。

第2章 法人方針・事業報告（董仙会本部）

個人情報管理委員会

■委員長・個人情報保護管理者
進藤 浩美

■2020年度のトピックス

監査項目①		監査項目②			
プリンター上、出力後紙の放置		カウンター、机上、掲示物等 覗き見、盗難への配慮			
2019	2020	2019	2020		
本部	0	0	本部	0	1
本院	1	2	本院	5	1
金沢	0	0	金沢	0	1
介護	0	0	介護	2	1

■事業報告

- ① 6/22、11/16に個人情報管理委員会を実施。本部・本院・金沢病院・介護事業部門それぞれの個人情報委員に監査の計画を指示し、実施した結果を報告した。
- ② 定期的に患者をピックアップし、電子カルテアクセスログより、業務以外の事象があるかチェックしている。不正アクセスと思われるものは、人事委員会案件とした。

キャリアデザインプロジェクト

■リーダー
松田 久良

■2020年度のトピックス

- e-learningに11項目の新講義をアップした。
- | | |
|----------------|-----------|
| ①健康経営 | ⑦恵寿フィロソフィ |
| ②ビジネスマナーの基本 | ⑧SPDの仕組み |
| ③20代からの資産形成 | ⑨BCP水害対策編 |
| ④BCP停電編 | ⑩SDGs |
| ⑤年末調整 | ⑪コロナ対策 |
| ⑥Teams・Zoom使い方 | |

■事業報告

- ① コロナ禍により、オンラインやハイブリッドでの研修会を新規採用5回、正職員転換2回、昇級者8回、中途採用12回、役職者9回実施し、ブルーブック「キャリアデザインプロジェクト」を大幅に見直し、2021年版を刊行した。
- ② ほくぎんビジパ俱楽部に加入して、外部のアウトソーシングした講座（700講座以上）も導入し、職員の研修体制の充実を図った。

BCM委員会

■委員長
松田 久良

■2020年度のトピックス

- BCMVer.4.0発刊 別冊 換気設備発刊
- ・豪雨水害編から水災編へ
 - 近来、地球温暖化の影響もあり、大規模な自然災害が多発した。その中でも甚大被害をもたらす恐れのある線状降水帯の対策を念頭に水災編を大幅に見直した。
 - ・新たにパンデミック編
 - 新型コロナ対応の中、パンデミック編をまとめた。

■事業報告

- ① 水災編では、2018年の実際の水災で和光苑、鶴友苑、本院で起こった事を検証し、警報レベルに応じた、チェックリストを作成した。また止水板を整備し、使用方法等のe-learningも作成した。
- ② 停電時のエレベーター使用についてまとめ、e-learningについて着手中である。

リクルートプロジェクト

■リーダー
松田 久良

■2020年度のトピックス

- ・感染防止対策 いち早くオンライン化
就職説明会、見学会、面接もオンライン化した。
- ・EメールによるDM
7,000通以上発信
- ・新聞折込ちらし
毎週、同じティーストで作成

■事業報告

- ① 新規採用職員獲得過去最高75名、中途採用職員も過去最高、2021年4月1日付け採用は、100名を超えた。
- ② 派遣会社、紹介会社、トラベルナースにも各種アプローチを行い、採用に至った。
- ③ 支度金も増額し、職員の紹介料も増額した。

外国人職員受け入れプロジェクト

■リーダー

松田 久良

■2020年度のトピックス

初めて技能実習生インドネシア人を採用

- ・徳充会・受け入れ機関「グローバルネット」と十分に連携
- ・和光苑内に礼拝用の祈祷室を準備
- ・技能実習生受け入れ研修受講
- ・職員教育として、イスラム文化の知識を情宣し、「イスラム教について」を刊行

■事業報告

- ① 職員教育について、イスラム文化の中でも、ハラール食・HALAL・ラマダン・ヒジャブ・礼拝などのイスラムの禁忌について受入職員の意識啓発に努めた。
- ② IMSプロジェクトとして、継続的に中国人看護師獲得の準備をした。しかし、IMS・瀋陽プロジェクトで獲得した看護師の退職が続いている。

福利厚生委員会

■委員長

安井 智美

■2020年度のトピックス

新入職員を主人公にした動画を作成した。董仙会職員が視聴できるようにQRコードを作り、メール・ポータルサイトで周知した。



QRコード



動画の一場面

■事業報告

新型コロナウイルス感染の影響で数々のイベントが中止となつた。例年行われる、けいじゅヘルスケアシステム大忘年会や七尾港まつり総踊りは勿論、新入職員は歓迎会などもなく、社会人として大切なコミュニケーションの場を奪われてしまった。動画作成が「コロナ禍ならではの思い出」になるのではないかと企画した。（楽曲：NiziU・make you happy）

TQM委員会

■委員長

安井 智美

■2020年度のトピックス

下期の優秀賞は全て介護部門であった。

2020年9月25日（金）、29日（火）、10月1日（木）

1日目	恵寿金沢病院 臨床検査課
2日目	本院 看護部・サービス課・医療秘書課・医事課
3日目	本院 放射線課

2021年3月3日（水）、4日（木）、10日（水）

1日目	けいじゅ一本杉
2日目	いこい
3日目	ほのぼの

■事業報告

初めてオンライン（Zoom）にて発表大会を実施した。

上期下期とも平日3日間の分散開催とし、時間帯も変えることで、勤務中に職員が交代で参加できるように工夫した。Zoomの機能を利用しチャットで質問する事ができたり、発表者も自部署から参加する事ができる為、移動時間が掛からないなどの利点があった。

診療報酬データ管理プロジェクト

■リーダー

安井 智美

■2020年度のトピックス

恵寿総合病院事務部と協働し活動。メンバー3名が、経営改善アカデミーWeb開催（宮崎大学 病院IR部 NPO日本医療ネットワーク協会主催）に参加、2ヶ月に渡りグループワークや自院のデータ分析を行い、演習成果発表会にて発表を行った。

■事業報告

- ① 毎月の医事課速報資料作成後、ディスカッションを行っている。疑問点を出し合い、仮説を組み立て、データを調べた結果を、経営会議にて報告した。
- ② メンバーだけでは同じような着眼点に偏りがちなので、外部講師を交えてオンライン勉強会を5回開催した。

病院・施設委員会

■委員長

吉田 茂和

■2020年度のトピックス

コロナ対応で情報共有した主な内容

- 感染多発地域から利用者の家族が帰省した場合の通所者の利用ルール
- 各施設、入所と通所の利用者のゾーニング
- 面会対応の方法
- 食堂のアクリル板など環境整備
- 抗体検査の方法

■事業報告

- ① 各施設の感染拡大予防対策などの情報共有
パーティションの準備や消毒対応、各施設の面会対応など、各種対応の情報共有を行った。また、新型コロナウイルス抗体検査についても職員に情報共有を行った。
- ② 「Foot活プロジェクト」再始動について周知
「Foot活マイスター」の養成や活動について情報交換・情報共有を行った。

けいじゅFM会議

■委員長

梅田 信一

■2020年度のトピックス

- コロナ対応の設置、改修の主なものは、下記である。
- ① 産科発熱外来、一般発熱外来の設置、それに伴う看板の設置、汚水管理。感染防止備品備蓄倉庫の設置
 - ② 本院臨床検査課の倉庫を遺伝子検査室に改修
 - ③ 本院健康管理センターの呼吸機能検査室に換気扇設置
 - ④ 和光苑の通所出入口を変更

■事業報告

- ① 全施設設備等についてパートナー企業である大成有楽不動産と協議し、メンテナンス業務を行った。特に、コロナ対応として、フィルター清掃、機械換気調整に注力した。補助金事業で、和光苑と鳩ヶ丘の非常用発電機を更新した。
- ② ビオラ・コニアの全戸の入り口鍵の交換を実施した。
- ③ 鳩ヶ丘職員住宅のエアコンの更新を実施した。

第2章 法人方針・事業報告（董仙会本部）

けいじゅクリーン会議・委員会

■委員長

梅田 信一

■2020年度のトピックス

今年度は、オリックス社とのクリーン会議に加えて、董仙会事業所代表が参加するクリーン委員会を実施した。7月より奇数月に4回開催した。
会議・委員会の内容として、コロナ感染防止対策の情報共有を行った。（例）車いすなどの消毒後は、消毒済みの札を掛けること、利用する消毒液、シートのメリットなど。

■事業報告

- ① 介護施設の浴室のカビ、浴槽の汚れについて、特別清掃を含め運用を検討した。
- ② 5Sの取り組みとして、粗大ごみ、不用品を廃棄物を回収する日程を事業所毎に設定し実施した。
- ③ 本院の落下針について、2020年度は4件であり、昨年と同じ件数だった。

地球温暖化対策推進委員会

■委員長

梅田 信一

■2020年度のトピックス

エネルギーの使用に伴って発生する二酸化炭素の温室ガス算定排出量は前年比の94.10%となり、CO2発生を削減できた。

年度	2017年度	2018年度	2019 年度
CO2発生量	9,228t-co2	8,542t-co2	8,036t-co2
前年比	—	92.60%	94.10%

■事業報告

- ① 2019年度に和光苑の西棟にて給湯設備をA重油から電気ボイラに更新および照明設備をLED化を行った結果、CO2の発生が減少している。
- ② 地球温暖化対温暖化策推進員の選定し、チャレンジ目標を設定して取り組んでもらったが、目標の精査と、冬の取り組みが出来なかつた。

医療事業統括部門 恵寿総合病院

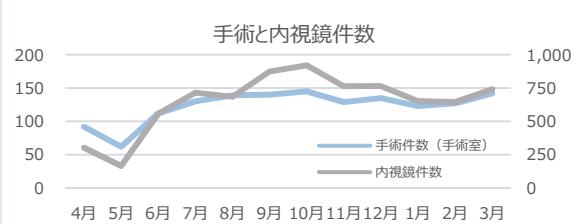
恵寿総合病院

■病院長

鎌田 徹

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症の影響が様々な場面で認められた。入院外来患者数は減少し、インフルエンザなどの感染症患者が減少するなど疾病構造の変化を認めた。特に4月5月は健診や診療制限を行った影響で手術・内視鏡件数は激減した（図）。また患者・利用者・ご家族には全館面会禁止などの不便を強いてきたが、一方オンライン面会・オンライン勉強会・オンライン会議など能登の地理的不利益を払拭する新たなツールが浸透してきた。



■事業報告

① 感染症協力医療機関、外来診療・検査医療機関、ワクチン接種における基本型医療機関として別棟の発熱外来設置や病棟のゾーニングなどにより厳重な発熱患者・コロナ感染患者・濃厚接触者対応を継続的に行つた。また会議・委員会のオンライン化やプライベートの行動自粛などにより入院患者・職員のコロナ感染はゼロであった。

② 入院について

病床稼働率、平均在院日数、看護必要度はそれぞれ81.8%、15.3日、28-31%であった。それ以外に重要な指標である救急車受入台数、入院患者数、手術件数（全身麻酔）は1,359件、5,678人、1,476（795）件であり、ほぼ前年を下回った。また地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、障害者病棟の稼働率はそれぞれ80.9%、87.2%、98.6%であった。

③ 外来について

地域医療支援として能登地域の医療機関で当院の眼科、脳外科、糖尿病、循環器疾患等の専門医が診療を継続した。教育研修として、看護師特定行為研修、救急事例検討会、研修医勉強会などを継続した。

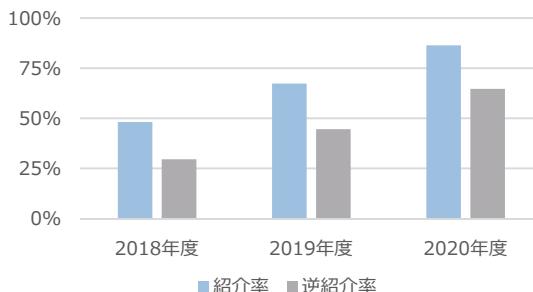
診療部

■診療部長 ■副部長
山崎 雅英 西澤 永晃（医局長）、森永 敏生

■2020年度のトピックス

石川県地域医療支援病院に認定され、能登地区の地域医療の発展に貢献すべく、日々診療に取り組んでいる。新型コロナウイルス対策として、発熱外来を設置し、PCR法、LAMP法による新型コロナウイルス遺伝子核酸増幅検査を院内で測定する体制を整備した。

紹介率・逆紹介率



■事業報告

- ① 新型コロナウイルス感染症流行の影響をうけ、残念ながら、外来・入院患者数は減少した。
- ② 2020年4月に石川県地域医療支援病院に認定され、能登地区の地域医療の発展に貢献すべく、日々診療に取り組んでいる。
- ③ 連携医療機関との連携を密にし、患者紹介率・逆紹介率が順調に増加した。
- ④ Web・ハイブリッド講演会などを通して地域医療に貢献した（診療部 年間12件）。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染の流行を受けて、プレハブの発熱外来を設置するとともに、PCR法、LAMP法による新型コロナウイルス遺伝子核酸増幅検査を院内で測定する体制を整備した。これにより、有症状患者は先に新型コロナウイルスPCR検査を実施し、陰性確認後に一般診療を行い、手術患者はLAMP法（予定手術）、PCR法（緊急・準緊急手術）で新型コロナウイルス感染の有無を確認の上、手術を行うことで、院内感染・クラスターの発生なく第3波を乗り切ることができた。
- ⑥ 能登中部保健所の依頼により新型コロナウイルス陽性患者の受け入れも行っている。

消化器外科

■所属医師
佐藤 就厚、高井 優輝、久野 貴宏、藤原 優太

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症の拡大により、手術件数を抑制した影響で、5月の収入悪化が顕著であったが、目標値には届かなかったものの、年度末には、前年度の水準に近い手術件数、収入があった。防疫体制が整った上で、コロナ禍と変わらずに、診療を行える環境が整備できたことが大きかった。

手術件数推移



■事業報告

- ① 消化器外科として全麻手術目標230件→223件（96.1%：前年度比、以下同じ）で未達成。
- ② 腹腔鏡手術目標180件→178件（89.9%）で未達成。
- ③ 消化器外科医業総収入（外来・入院）目標の94.2%（98.8%）で未到達。
- ④ ③のうち、入院分目標の93.4%（99.8%）で未到達。
- ⑤ CO₂送気装置を用いたCT colonographyは27件
- ⑥ 消化器外科外来売り上げ前年比:95.0%、同単価: 93.8%、入院単価:97.4%
- ⑦ 緊急手術件数が130件と、年々増加あり。
(2016:97件 / 2017:103件 / 2018:112件 / 2019:124件)
- ⑧ 新型コロナウイルス感染症対策として、飛沫が飛散する可能性が高い手術を受ける患者に対して、術前スクリーニング検査を導入したため、胸部CT、遺伝子検査の件数が増加した。

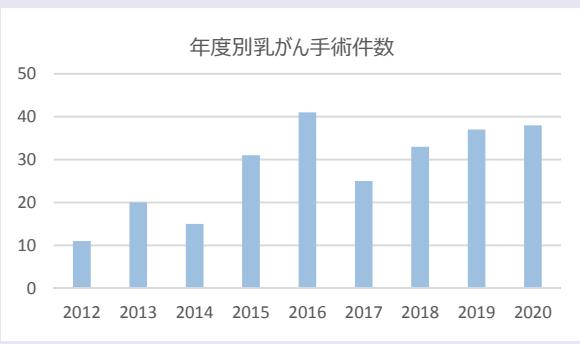
乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹

■2020年度のトピックス

2016年度から乳腺外科を専門科として独立し、評判向上と充実を図ってきた。乳がん手術例は昨年度37例、本年度は38例と微増であった（下図）。抗がん剤治療の適応の判断材料としてのオンコタイプDX（遺伝子検査）の導入や種々の抗がん剤適応の有無に必要なコンパニオン診断検査を積極的に導入している。



■事業報告

① 乳がんの診療の充実

昨年度に比較し、乳がん手術件数は微増（図）だが、外来化学療法・放射線治療件数ともに増加し、当院乳腺外科が周知されていると考えている。前述の種々の遺伝子検査を行うことで、最新の抗がん剤治療を積極的に導入している。女性放射線技師が実施しているドック乳房超音波検査時の機器が最新となり、ドック超音波の精度が高まった。

② 学会参加などにより知識を深めた

今年度は自身の学会発表は行わなかったが、オンラインによる様々な講演会を七尾でオンライン聴取でき、有用であった。また能登地域での医療従事者向けのオンライン講演会を座長として、2回開催した。

③ その他

再診患者はもちろん初診・紹介患者も予約を行うことで、利便性を図っている。また、紹介患者でなくとも、かかりつけ医がいれば、積極的に診療情報を提供している。今後も診療体制を充実し、最新の知見・治療にも対応し、能登の地域で信頼されるように精進していきたい。

内科

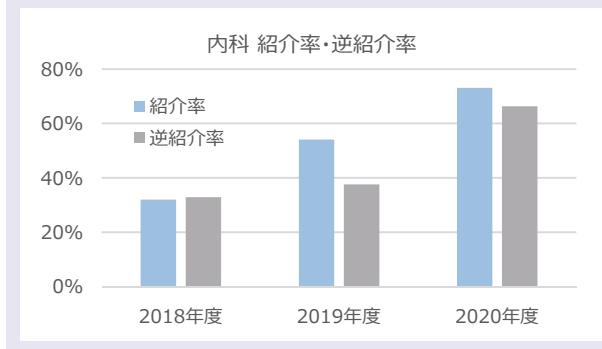
■所属医師

宮本 正治、山崎 雅英、山村 健太、向井 清孝、村田 亜香里、宮竹 敦彦、豊田 洋平、近川 由衣、野村 和利、野村 俊一、岩淵 佑

■2020年度のトピックス

地域医療支援病院として、

- ① 連携医療機関との連携を密にし、患者紹介率・逆紹介率が順調に増加した。
- ② 発熱外来を設置し、能登中部保健所・連携医療機関から依頼された患者のCOVID-19PCR検査を含め、地域での新型コロナウイルス流行阻止を図った。



■事業報告

① 新型コロナウイルス感染の影響が大きく、新患・再診外来患者数、入院患者数に関しては残念ながら減少した。

② 地域医療支援病院として、連携医療機関との連携を密にし、患者紹介率・逆紹介率は順調に増加した。

紹介率

2018:32.0% / 2019:54.1% / 2020:73.1%

逆紹介率

2018:32.9% / 2019:37.6% / 2020:66.3%

また、「二人主治医制」を推進した。

③ 新型コロナウイルスPCR法・LAMP法による核酸增幅検査の院内測定導入、発熱外来設置を受け、連携医療機関から依頼された発熱患者、能登中部保健所から依頼された発熱患者・濃厚接触者のCOVID-19PCR検査・診療を内科・消化器内科・循環器内科で協力して実施し、地域での新型コロナウイルス流行阻止の一翼を果たした。

④ 新型コロナウイルス流行のため学会が中止・延期・Web開催となる中、学会発表12報、論文1編（依頼原稿）、新たな専門医取得延べ3名の学術活動を行い、各種外部委員としても活動を行った。

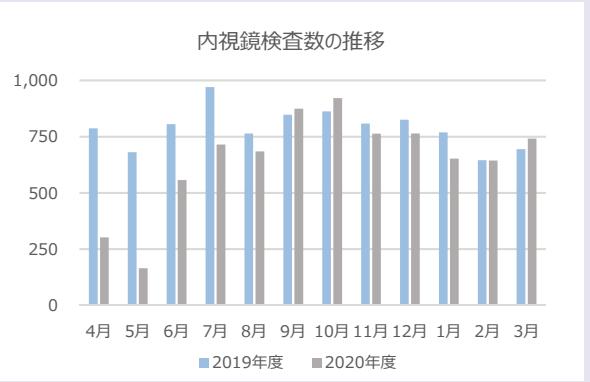
消化器内科

■所属医師

守護 晴彦、神野 正隆、藤原 秀、中井 亮太郎

■2020年度のトピックス

コロナの影響で外来、入院数および検査数の総計は減少したもの、年度途中からは例年並みの検査数の推移となった。特に内視鏡検査はコロナ感染の危険が高い中で、医師、コメディカルともに協力して検査を行った。内視鏡専門医不在の影響で奥能登からの紹介患者が増加した。



■事業報告

- ① 2020年1月からのコロナショックの影響により、患者紹介の減少、受診抑制および人間ドック・住民検診の抑制につながり、外来、入院、内視鏡検査数が年度前半は減少したが、9月以降は増加している。
- ② 内視鏡検査数は上部消化管7,782件、下部消化管1,774件（大腸ポリープ切除・EMR310件）と目標値並みの件数であった。ERCPは218件と例年よりも多く、今年度からの奥能登の内視鏡熟練者不在による紹介患者の増加が影響したと思われる。
- ③ 2019年度までは待機的内視鏡治療を火曜日（週1日）に行ってきたが、2020年度は火曜日、木曜日（週2日）とすることで火曜日に集中してきた負担を軽減することができた。反面、木曜日の負担が増加したため、全大腸内視鏡を従来の木曜日10件から2021年度は火曜日、木曜日に5件ずつ分散して負担軽減を図る予定。
- ④ 内視鏡検査によるコロナ感染の危険性を指摘されており、可能な限りでの感染防御を行っているが、スタッフの身体的、精神的な負担は非常に大きいと思われ、献身的に診療していることを報告する。

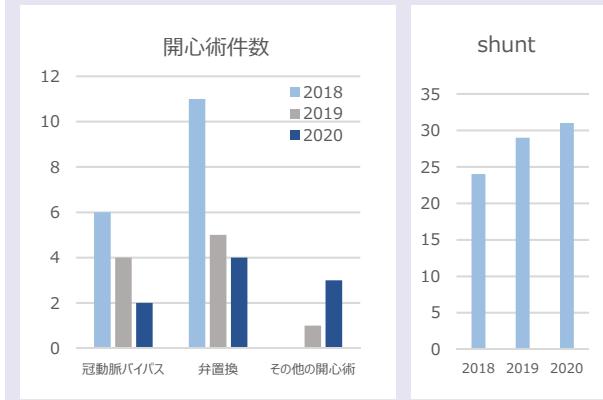
心臓血管外科

■所属医師

西澤 永晃、中嶋 和恵

■2020年度のトピックス

年間手術件数は、新型コロナ感染症による手術制限期間が長期であったために、開心術を含めここ数年で減少傾向であるものの、虚血性心疾患の合併症である心室中隔穿孔・心破裂等の重症例に対しての緊急救手は積極的に施行した。透析関連の手術は増加した。



■事業報告

- ① 2019年度に、産業医との協力による一般事業所への講演会を開始した。2020年度は更に複数の事業所・会社等へ拡大し、病院アピール・患者数獲得に向けた企画を計画していた。またハートセンターとして循環器内科と合同で、中能登・奥能登地域の医療機関と連携を深めるため、継続的に市民公開セミナー及び連携医療機関での講演会を行う計画をしていたが、新型コロナ感染症の影響で、講演会等を行うことができなかった。Web講演等も積極的に参加し、主催していく。
- ② 学会発表1回・論文掲載 1回を引き続き行う。
- ③ 高齢化率の上昇と人口減少地域であることを考慮すると、開心術は重症例増加、手術件数減少の状態であるが、緊急救手対応にも積極的に行える体制を継続していく。循環器疾患の診療件数の底上げになるように、能登地域で唯一循環器内科との協力体制で心臓血管手術ができる施設であることをアピールする。循環器疾患全般の出張外来の継続及び公立病院への出張外来を拡大し、新患を含めた外来患者数増加、入院患者数増加及び手術件数増加につなげる。

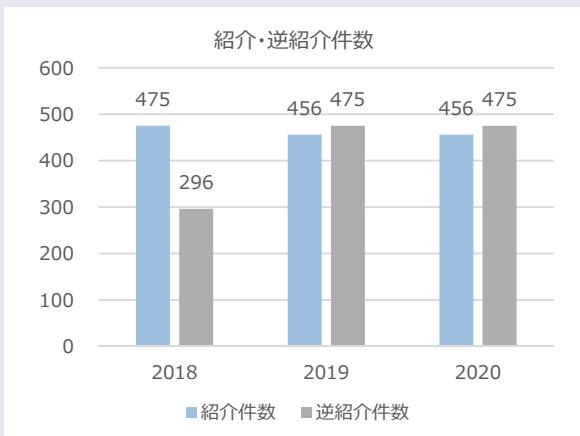
循環器内科

■所属医師

宝達 明彦、寺田 和始、野口 昌寛

■2020年度のトピックス

医師数が3人と増員となり、珠洲市総合病院の診療支援の拡充を図ることができた。冠動脈領域に新規デバイスの導入を行い、治療選択の幅が広がった。紹介件数、逆紹介件数ともに堅調に推移した。



■事業報告

- ① 能登地域での講演会は中断となったが、オンライン学会やWeb講演会に参加し、知識のブラッシュアップ、最新の知見を得るなど診療水準の底上げを図る一年となった。
- ② 科内でオンライン症例検討を行うなど、コロナ禍や働き方改革に即した新しい試みを行っている。
- ③ 冠動脈インターベンションに新たなデバイス(Rotablator)を導入し、石灰化の強い病変でも良好な治療結果が得られるようになった。
- ④ カテーテルアブレーション治療も定期的に行っており、スタッフが習熟してきている。
- ⑤ 珠洲市総合病院での循環器専門外来が月3回から毎週に増加となり、能登地域医療にこれまで以上に貢献できるようになった。

脳神経外科

■所属医師

岡田 由恵、東 壮太郎

■2020年度のトピックス

2016年秋に、入院担当医師が2人から1人となり、一時は入院患者数が減少したが、2019年には過去を上回る患者数となり、2020年は新型コロナウイルスの影響で、病院受診控え・手術控え・面会できないことによる入院控えが世間では言われていたものの、入院患者数は前年と同等であった。



■事業報告

- ① 2020年度実績
新入院患者数：205名(転科12名を含む)
延べ入院患者数：12,865名
1日平均入院患者数：35名(ピーク時は50名超え)
tPA投与症例：7例
手術件数：10件(うち慢性硬膜下血腫9件)
- ② 金沢大学脳外科との、紹介・逆紹介症例が増加傾向。
県立中央病院、金沢医科大学病院との紹介・逆紹介もあり。
- ③ 能登総合病院との連携を密に行い、お互いに速やかな受け入れを行っている。
- ④ 脳神経内科との症例検討、ハイケアユニットでのフィルムカンファレンスと多職種回診、脳卒中ユニットでの多職種回診および症例検討会等は、感染対策に注意した上で継続して行っている。

脳神経内科

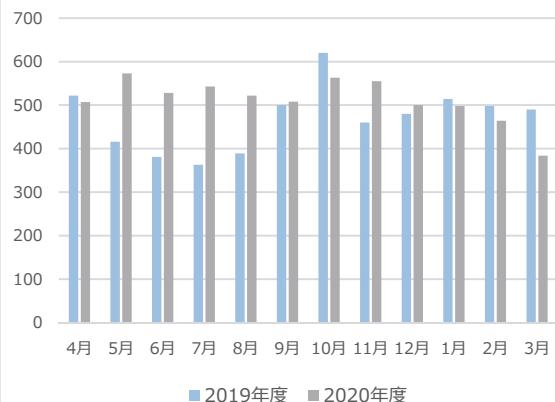
■所属医師

木元 一仁

■2020年度のトピックス

外来患者数は減少した。紹介数も43%の減少。しかしながら、入院患者数は通年で大幅な減少はみられず、年間合計で9%増加した。

延べ在院患者数 月次推移



■事業報告

- ① 外来、救急医療を継続している。
- ② 入院患者の多くは脳梗塞であり、全体の42%程度を占めている。続いて、脳内出血、前庭機能障害の順に多い。年間を通して大きく減少する月は無かった。
- ③ 多職種でのストrokeユニット回診、カンファレンスを定期的に行い、スタッフのレベルアップを図っている。
- ④ 今年度も、金沢大学脳神経内科による能登ロスマリン酸認知症予防プロジェクト健診が、本館1階多目的ホールにて定期開催された。

整形外科

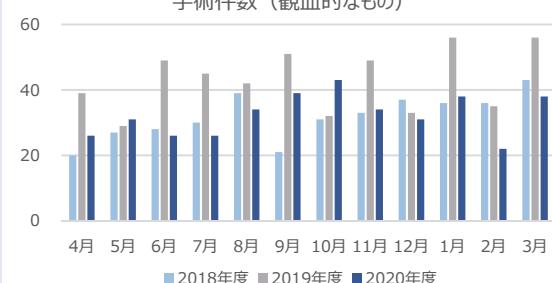
■所属医師

森永 敏生、阿部 健作、有馬 佑

■2020年度のトピックス

外来患者数、新入院患者数、手術件数とも、昨年を下回った。コロナ禍で、外傷患者が減少しているように思う。術前PCR検査の徹底など、感染予防対策に努めながら手術を継続し、何とか一昨年の件数をわずかに上回ることができた。手術では、変形性膝関節症に対する人工関節置換術、骨切り術、関節鏡視下手術に力を入れた。

手術件数（観血的なもの）



■事業報告

- ① 外来売り上げは、昨年比3.5%減、一昨年比3.5%増、入院売り上げは、昨年比4.7%減、一昨年比5.8%増であった。外来、入院とも昨年より患者数が減少する中で、単価を上げることができたため、売り上げの減少は最小限にとどめることができた。
- ② 毎朝医師3人でカンファレンスを実施、また週に1回は看護師、PT、OT、MSWと合同カンファレンスを実施し、患者の情報を共有するとともに、良質で適切な治療を提供できるように努力した。
- ③ 前年度に引き続き、骨粗鬆症リエゾンチームで活動を行った。大腿骨近位部骨折のみならず、橈骨遠位端骨折患者にも対象を拡大し、二次骨折予防に努めたい。

産婦人科

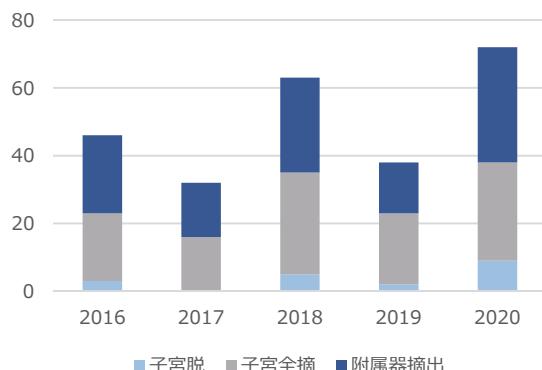
■所属医師

新井 隆成、安田 豊、高多 佑佳、宮田 康一、尾山 量子

■2020年度のトピックス

産婦人科収益前年比104%、入院収益前年比109%となった。婦人科主要三手術総数の前年度比較34件増、DPC収益の増加が好結果の主要因である。

婦人科主要三大手術数年次推移



家庭医療科

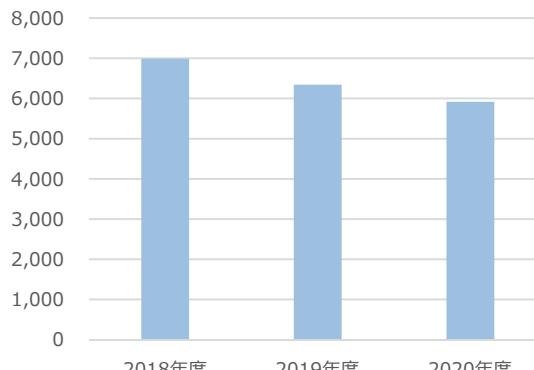
■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要、二川 真子

■2020年度のトピックス

・延べ在院患者数：5,918人（前年比：93.3%）
・外来患者数：8,713人（前年比：92.7%）
・一日当たりの外来患者数：36人（前年比：90%）

在院患者数推移



■事業報告

- ① 入院収益が前年比109%の増収となった主な要因は、婦人科主要三手術である子宮全摘術、子宮附属器腫瘍摘出術、子宮脱手術の総数が前年比34件増加したことである。特に目標とした子宮脱手術数は目標通り7件増加した。これにより、人口減少に伴う分娩数の減少による減収分を補うことにつながった。
- ② 外来収益は前年比90%と減少したが、外来単価は増加した。特にMRI検査数が前年比129%、子宮内膜生検数 前年比123%などの増加があり、これらは、婦人科主要三手術件数の増加につながったものと推察される。また、昨年度の目標であった婦人科健診の要精査受診率が、過去の調査結果25%から50%に上昇（健康管理センター調査）したことは外来検査数の増加につながった可能性がある。
- ③ 産科では、「安心安全なお産を守る」ための恵寿産科プロトコルの徹底により、DPCにおいて「胎児及び胎児付属物の異常」件数が60件増加した。この業績増加はDPC収益前年比122%に貢献した。

■事業報告

① 患者数

外来患者数は、8,713人で、前年度9,400人より7.3%減少した。一日当たりの外来患者数は、36人で、前年度40人より10%減少した。

延べ在院患者数は5,918人で、前年度6,344人より6.7%減少した。新入院患者数は151人で、前年度156人より若干減少した。コロナ禍による受診控えが影響していると思われる。

② 地域交流

11月にみそぎ地区コミュニティセンターにて講演会「新型コロナウイルスとインフルエンザを学ぼう」を行った。当日は窓を開けて十分換気を行った会場にて、37名の方にご参加いただいた。

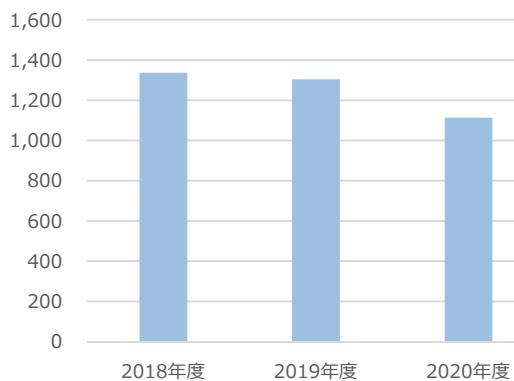
小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、清水 陽

■2020年度のトピックス

延べ在院患者数推移



■事業報告

- ① 2020年度は一般の小児疾患の診療と金沢医科大学より小児内分泌、および小児神経、金沢大学より小児アレルギーそして小児循環器（中谷）の専門外来と新生児を中心とした入院治療を柱にして小児科の事業を行ってきた。
- ② 外来は専門外来が前年と比較して全体的には堅調に推移したと思われるが、全体としては新型コロナウイルス感染症の影響を受け患者数は減少した。入院も新生児の分娩数の減少もあり前年と比較して減少した。

眼科

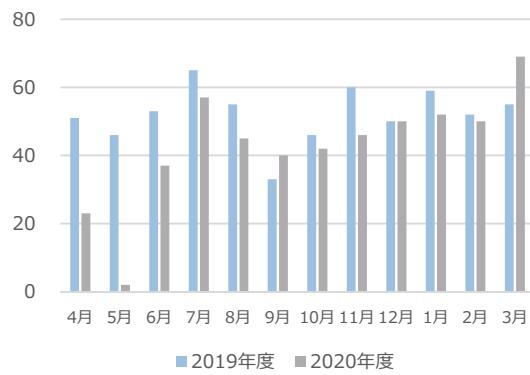
■所属医師

馬渡 嘉郎

■2020年度のトピックス

4月、5月は手術の制限を行ったため大幅に減少した。6月より待機患者から手術を開始し、年度末にかけて件数は回復してきている。

眼科手術件数



■事業報告

- ① 最新の知見に基づいた治療手段の選択肢をご紹介いただけた患者に提供できるように努力したい。
- ② 白内障を中心に硝子体、眼瞼、緑内障の手術を提供し、低侵襲の最新の手技を心掛けている。
- ③ 外来診療では緑内障の薬物治療の方法論にこだわり、患者の負担にならない投薬、通院の仕方を提供できたらよいと考えている。
- ④ 働き方改革に留意した仕事の進め方をしたい。
- ⑤ 手術希望患者さんを待たせることなくご希望の時期に手術を提供できるように調整ていきたいと考えている。
- ⑥ 能登北部の医療機関への出張外来を継続し、地域医療支援に貢献した。

耳鼻咽喉科

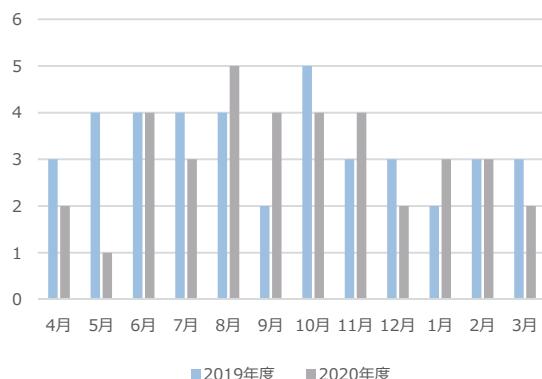
■所属医師

山田 和宏

■2020年度のトピックス

手術件数（外来小手術を除く）は4～5月は新型コロナウィルスの影響で減少したが、6月以降は前年度と同等の件数であった。

手術件数(外来小手術を除く)



■事業報告

① 2020年度

外来受診数：5,265名

初診患者数：423名

新入院患者数：69名

手術件数：97件

② 紹介入院数は例年とほぼ同様であった。

2018:28名 / 2019:31名 / 2020:29名

③ わかりづらい耳鼻咽喉科の疾患について、患者様に十分に理解していただけるよう、耳・鼻・咽喉頭の解剖の図や模型を用いるなどして丁寧な説明を心がけた。

④ 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科などの高次医療機関と連携をはかり、安全で適切な医療を提供するよう努めたい。

泌尿器科

■所属医師

川村 研二

■2020年度のトピックス

経直腸超音波下經尿道的前立腺核出術は前立腺肥大症に対する、新術式であり当院では安全で質の高い手術が行われている。全国の泌尿器科医師に対して、この術式の手術方法について講演を行った。現時点で500例以上の手術を行っており、今後も前立腺肥大症に対する安全な術式を全国にひろめる、トップリーダーとして活動していく予定である。

現在まで12年8ヶ月間に恵寿総合病院泌尿器科で施行された1,836例の手術症例を評価：手術の種類は經尿道的手術が約70%、小切開開腹術(前立腺・腎等)が約14%を占めた。手術関連死亡率は1,836例中0例（0%）であった。

2020年度泌尿器科手術件数

手術の種類	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	27
経尿道的前立腺核出術	17
その他（手術室）	38
ESWL（結石衝撃波治療）	41
合計	123

■事業報告

① 体外衝撃波結石破碎術（Extracorporeal Shock Wave Lithotripsy : ESWL）

ドルニエDeltaⅢ Far Sightを2019年に導入し2021年3月までに67例97回の治療を施行。95%の完全碎石率で手術併発症を認めなかった。

② 経尿道的前立腺核出術

お腹を切らない前立腺肥大症の手術方法で、2008年から500例以上の手術を施行し、良好な手術成績を継続している。経直腸超音波併用の術式を考案し手術併発症を認めない安全で質の高い手術を行っている。

③ 論文・学会発表等で手術成績開示、医療の質の評価

感染症・泌尿器科癌・術後回復強化プロトコール（ERAS）・クリニカルパス等について報告している。論文執筆は7編と多数の報告。学会発表は25回で、全てオンラインの発表であった。ERASと急性期期間の短縮-DPCデータによる急性期期間の分析-、ESBL産生菌直腸スワブ陽性患者における経直腸的前立腺生検の感染予防効果、病院の言葉を分かりやすくする試み、恵寿総合病院・泌尿器科における手術の質の評価-手術併発症と手術関連死亡について-等を医学雑誌に投稿受理された。

麻酔科

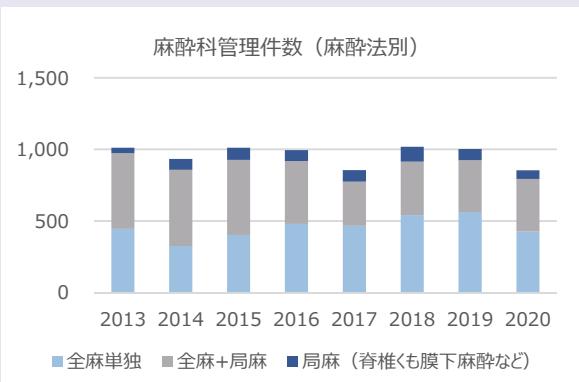
■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦

■2020年度のトピックス

本年度は、4/13-6/6において、新型コロナウイルス感染対策のため、手術のトリアージを行った。

- ① 麻酔科管理手術件数 854件（前年度1003件）
- ② 総麻酔管理時間 3214時間（前年度3318時間）
- ③ 緊急手術割合 33%（前年度37%）



皮膚科

■所属医師

坂田 祐一

■2020年度のトピックス

当科では院内対診にも積極的に可能な限り早めに対応することを目指している。予期せぬ創傷に対する縫合等の処置、褥瘡発生時の初期対応、尋麻疹や蕁麻疹に対する治療・原因検索、蜂窩織炎・丹毒等の感染症の対応、足白癬・足爪白癬・カンジダ症等の皮膚真菌症に対する治療、爪切り、鶏眼・胼胝腫削り等を今後も行っていきたい。



■事業報告

本年度は、4/13-6/6において、新型コロナウイルス感染対策のため、手術のトリアージを行った。そのため、件数で15%程度減少した。

① 麻酔科管理件数

前年度比で15%減少した。しかしながら、後期においては周術期管理システムによる入退室管理やスケジューリングの効率化などにより増加している。

② 総麻酔時間

昨年度とほぼ変化なし(3%減少)。内視鏡手術など高度で長時間な手術に対応できている。

③ 緊急手術割合

33%と高い割合を維持している。2名の麻酔科医を有効に配置し、緊急手術に対応した。また、夜間休日の拘束体制を維持した。

④ 無痛分娩数

全経腔分娩の18%と微増。今後も母体管理体制を整え、安全性と質を高め潜在的ニーズを拾い上げ、当院の分娩数の増加につなげたい。

⑤ 緩和ケアチーム対応患者数の維持

多職種と協議しながら、患者さんが少しでも満足できるよう質の高い対応をしていく。

■事業報告

① 外来患者数の伸び悩みがあるが、以下の点を重要視して診療を行った。

- 足爪白癬の内服治療薬（ホスラブコナゾール）を積極的に用いて適切な採血を施行のうえ「諦めていた爪水虫が治る！」という喜びを受診患者に感じてもらった。

- アトピー性皮膚炎のコントロールに関して患者自己評価のスケールであるPOEMを用いて病勢を患者と共有してきた。

- 寻麻疹のコントロールに関して患者自己評価のスケールであるUCT scoreを用いて治療効果を患者と確認してきた。

② 蜂窩織炎や帯状疱疹など悪化してからでは治療に難渋する疾患に関しては、早めの入院を勧めたことで早期治癒となり患者に満足して貰えたことが多かった。

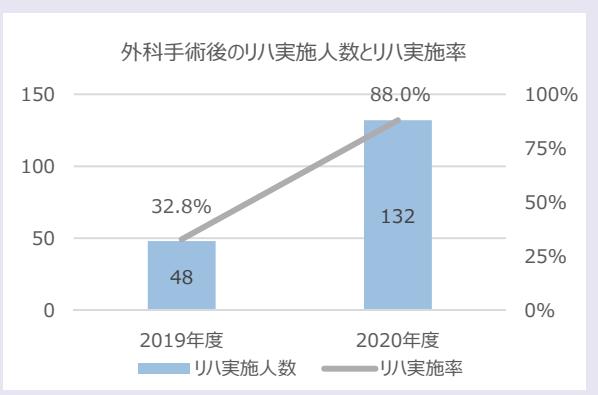
リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、伊達岡 要

■2020年度のトピックス

外科の術前リハビリ指導パンフレットを作成し、術前リハビリ開始システムを立ち上げることにより、消化器外科の全身麻酔術後患者のリハビリ施行率を大きく増やすことができた。ちなみに入院患者全体のリハ施行率も63%から67%と増加させることができた。



■事業報告

- ① コロナ禍で入院患者の減少がみられたが、入院患者のリハ施行率の増加および回復期リハへの転院患者の維持(66)により、リハ科収入の減少はほとんどみられなかった。
- ② 回復期リハ病棟の質を表す実績指数は昨年より10ポイント増加し、52となり回復期病棟基準1をクリアした。
- ③ 回復期リハ病棟で早期ボツリヌス療法を開始し、麻痺後のボツリヌス治療症例数は北陸でのトップを維持している。(ボツリヌス50単位を年間約400本使用した)
- ④ 外科の術前後のリハ施行率が増加したことにより、HCU入室中患者のリハ施行率も32%から41%と上昇した。
- ⑤ 回復期リハ病棟と訪問スタッフとの連携を高め、訪問リハ開始数を年65例から75例と増加できた。
- ⑥ 認知症ケア回診の継続的実施により、入院患者の抑制数は明らかに減少傾向にある。
- ⑦ 自動車運転評価数は年々増加しており、昨年の61例から64例となった。
- ⑧ コロナ禍ではあったが、Web併用での学会活動も積極的に行い発表数・論文数・資格数とも昨年並みであった。(28・10・7)

放射線科

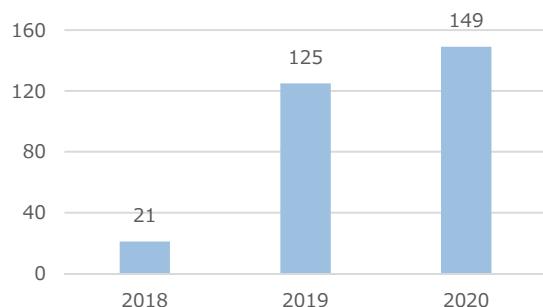
■所属医師

角 弘諭

■2020年度のトピックス

透析シャント血管の造影検査、血管狭窄に対してバルーンを用いた血管形成術（シャントPTA）の件数が増加している。大切なシャントを長期間使用するために、閉塞や狭窄の早期発見と治療を行っている。

透析シャント造影・血管形成術件数の推移



■事業報告

4月から医療法施行規則が一部改正され、診療用放射線に係わる安全管理体制に関する規定が施行された。患者に医療放射線被ばくについて説明をし、同意を得て検査を行う運用としている。分かりやすく説明できるように「医療放射線被ばく説明書」を作成した。一方、職員向けには、医療安全研修の一貫として放射線安全管理についての講習を行った。今後も放射線安全管理責任者として活動していく。

- ① 腹部血管塞栓術件数：26件（前年比66.7%）
- ② CTガイド下生検、CTガイド下ドレナージ件数：21件（前年比233.3%）
- ③ CT件数：15,156件（前年比99.8%）
- ④ MRI件数：4,340件（前年比92.9%）
- ⑤ マンモグラフィ件数：2,594件（前年比96.4%）
- ⑥ 骨塩量測定件数：840件（前年比101.7%）
- ⑦ 健診胃透視件数：1,012件（前年比105%）
- ⑧ 共同利用件数（CT/MRI/PET-CT）：335件（前年比90.8%）

救急救命科

■所属医師

米田 高宏

■2020年度のトピックス

救急車搬入患者数・専門医資格維持のための学会以外の研究会・セミナーの参加や研修医との早朝勉強会の実施数が激減した。医療秘書課と協力している逆紹介の件数が伸びている。後日専門外来受診のために患者に渡している再診案内用紙の回収数が79.8%と高値を示している。



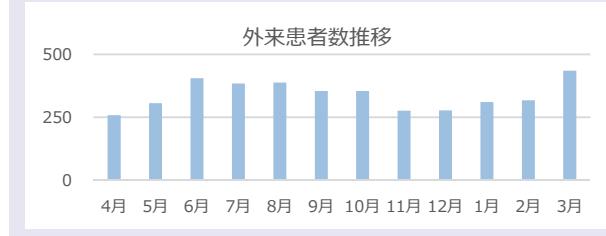
■事業報告

- ① 救急搬送患者数は1,300人代と激減した。
- ② 救急外来受診数は7,913人と激減した。
- ③ 年間入院数は865人と激減した。
- ④ 救急部査定：41件、アンモニア12件
上記のうち査定復活件：0件
- ⑤ 救急医学会専門医、麻酔科学会専門医を更新できている。
- ⑥ 救急車受け入れ不能件数は年間3件と優秀である。
- ⑦ CT・MRIの読影レポート結果確認率100%であり、さらに必要に応じて患者に報告し受診を促したり、入院・外来主治医に直接届くような仕組みを継続できている。
- ⑧ 研修医のER研修は継続して力を入れている。
- ⑨ 救急外来での紹介患者は528例
- ⑩ 逆紹介件数は医療秘書課と連携して順調に数を伸ばして322件となった。
- ⑪ 返書作成日数は1.1日と平均を上回っている。
- ⑫ 連携医療機関満足度調査では救急部への不満は見当たらない。
- ⑬ 「普段かかりつけ医、時々恵寿総合病院」というイメージで各医療機関との連携を勧めている。

形成・美容形成外科

■2020年度のトピックス

非常勤医師の協力により毎日の外来診療を継続している。



■事業報告

- ① 手術のほとんどは日帰りであり、年間件数は573件であった。前年度比96%でほぼ同数である。
- ② 皮膚・皮下腫瘍摘出が多く、全体の36%程度を占めている。

緩和ケア科

■所属医師

櫛田 康彦

■2020年度のトピックス

第3を除く金曜日に症例検討会、第3金曜日に委員会を開催した。下記は2020年度の主な活動内容である。

日付	活動内容
10/18	医療従事者のための緩和ケア研修会 (金沢医科大学附属病院) 講師として参加
11/27	のと緩和ケア研究会の事例検討会を主催 委員会より5症例を報告

■事業報告

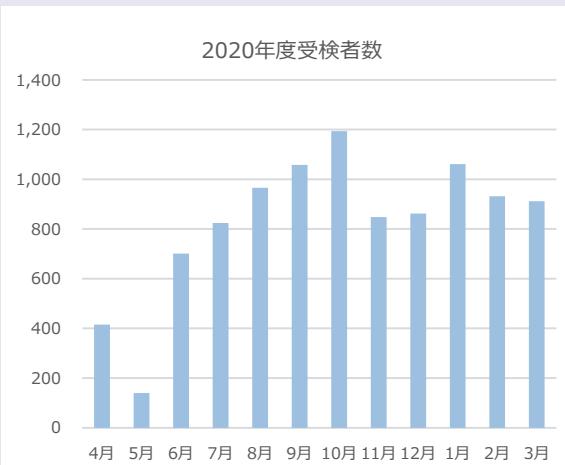
- ① 緩和ケア委員会よりアドバンス・ケア・プランニングを作成した。
- ② 研修医を月ごとに2名ずつ、症例検討会・委員会に参加させ、討論に加えた。

健康管理部

■センター長
上野 恒一

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、人間ドック・健康診断を一時中止し、6月1日より再開した。そのため、検診受入が年度後半に集中した。



■事業報告

- ・総受検者数：9,913名
- ・1日当たりの受検者数：41名
- ・1泊2日人間ドック受検者数：466名

新たな取り組み

- ① 肺がん検診リニューアル
8月1日より、低線量胸部CT検査による肺がん検診をスタートした。1cm以下の肺がんを早期発見することができ、被ばく量を気にする方にも気軽に検査を受けていただけるようになった。
- ② すい臓がん検診導入
腹部MRI検査、MRI胆すい管撮影の2種類の検査を実施し、進行スピードが速く、発見された時には治療が難しい場合も少なくないすい臓がんを早期発見するための体制を構築した。
- ③ 健康運動指導士による指導開始
健康運動指導士による個別の運動レシピを作成・提供し、完全個室にて実践をまじえた個別指導を実施している。また、腰痛予防のストレッチや座ってできる10のストレッチなどを紹介した「Exercise Note」を作成し、受検者さんや職員の健康増進のため活用している。

看護部

■看護部長
本橋 敏美

■2020年度のトピックス

- ① 看護師特定行為研修修了者7名（総人数22名）
特定行為実施件数：347件／年
- ② 抗がん剤投与実践研修修了5名（在籍者総数46名）
- ③ コロナ禍において、面会の在り方を変更
オンライン面会を有効に活用した
- ④ コロナ感染症患者4名を本館4階西病棟で受け入れた



■事業報告

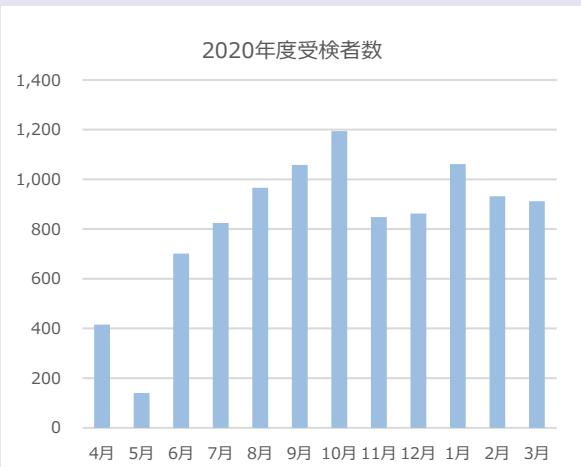
- ① 2020年度診療報酬改定の対応
 - ・せん妄ハイリスク患者ケア加算（4月～）、新・入院時管理加算（5月～）算定開始
 - ・看護必要度Ⅱの評価開始
 - ・「人生の最終段階における適切な意思決定支援に関する指針」の作成と活用
- ② 看護部摂食嚥下ケアプロジェクトチーム発足（10月）
 - ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が中心となり活動開始。病棟看護師、訪問看護ST看護師で構成。摂食嚥下ケアナースとして活動。口腔ケアマニュアルの見直し、技術指導、病棟ラウンドを実施。
- ③ 生産性の向上、ルーチンワークをシンプル化
 - ・スポットチェックモニターの適正配置と使用頻度向上
 - ・文書管理にある入院時書類を一つのファイルにまとめ、Excel起動時間の短縮を図るなど計31項目を実施。
- ④ コロナウイルス感染流行への対応
 - ・感染防止対策の再学習、PPE着脱訓練、患者ケア時のフェイスシールドまたはアイシールドの着用
 - ・感染症患者対応ユニットの整備と稼働
 - ・発熱マップファイルの作成と活用

健康管理部

■センター長
上野 恒一

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、人間ドック・健康診断を一時中止し、6月1日より再開した。そのため、検診受入が年度後半に集中した。



■事業報告

- ・総受検者数：9,913名
- ・1日当たりの受検者数：41名
- ・1泊2日人間ドック受検者数：466名

新たな取り組み

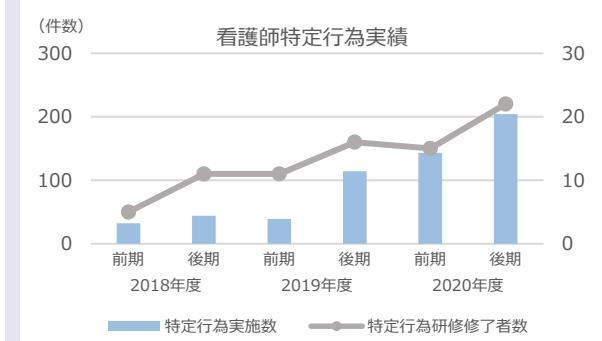
- ① 肺がん検診リニューアル
8月1日より、低線量胸部CT検査による肺がん検診をスタートした。1cm以下の肺がんを早期発見することができ、被ばく量を気にする方にも気軽に検査を受けていただけるようになった。
- ② すい臓がん検診導入
腹部MRI検査、MRI胆すい管撮影の2種類の検査を実施し、進行スピードが速く、発見された時には治療が難しい場合も少なくないすい臓がんを早期発見するための体制を構築した。
- ③ 健康運動指導士による指導開始
健康運動指導士による個別の運動レシピを作成・提供し、完全個室にて実践をまじえた個別指導を実施している。また、腰痛予防のストレッチや座ってできる10のストレッチなどを紹介した「Exercise Note」を作成し、受検者さんや職員の健康増進のため活用している。

看護部

■看護部長
本橋 敏美

■2020年度のトピックス

- ① 看護師特定行為研修修了者7名（総人数22名）
特定行為実施件数：347件／年
- ② 抗がん剤投与実践研修修了5名（在籍者総数46名）
- ③ コロナ禍において、面会の在り方を変更
オンライン面会を有効に活用した
- ④ コロナ感染症患者4名を本館4階西病棟で受け入れた



■事業報告

- ① 2020年度診療報酬改定の対応
 - ・せん妄ハイリスク患者ケア加算（4月～）、新・入院時管理加算（5月～）算定開始
 - ・看護必要度Ⅱの評価開始
 - ・「人生の最終段階における適切な意思決定支援に関する指針」の作成と活用
- ② 看護部摂食嚥下ケアプロジェクトチーム発足（10月）
 - ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が中心となり活動開始。病棟看護師、訪問看護ST看護師で構成。摂食嚥下ケアナースとして活動。口腔ケアマニュアルの見直し、技術指導、病棟ラウンドを実施。
- ③ 生産性の向上、ルーチンワークをシンプル化
 - ・スポットチェックモニターの適正配置と使用頻度向上
 - ・文書管理にある入院時書類を一つのファイルにまとめ、Excel起動時間の短縮を図るなど計31項目を実施。
- ④ コロナウイルス感染流行への対応
 - ・感染防止対策の再学習、PPE着脱訓練、患者ケア時のフェイスシールドまたはアイシールドの着用
 - ・感染症患者対応ユニットの整備と稼働
 - ・発熱マップファイルの作成と活用

事務部

■部長

森下 耕

■2020年度のトピックス

生産性および業務の効率性向上を目指し、業務処理時間短縮を意識して改善を進めてきた。定型業務におけるRPAを導入開始した。RPAに移行した業務の数はまだ少しだけはあるが、自動化による時間削減効果を着実に得ている。

業務名	作業内容	削減時間（月）
看護必要度集計関連業務（週次）	・EFファイル、Dファイル作成 ・必要度集計アリ起動 ・アプリから結果をダウンロード、編集 ・カルテ記事より診療行為抽出 ・医事データ突合	4時間40分
医事課異形データ作成（日次）	・「オーダーから医事返還」を起動 ・処理条件の入力 ・処理開始	30時間
実績データ集計（月次）	・レセプト〆処理開始 ・統計データ作成 ・会計データ作成 ・集計データをCSV出力し、ピボットテーブル作成	4時間30分
発熱マップ表示（日次）	・SSIスコープ起動 ・体温データをCSV出力 ・マップ表示アプリへインポート	8時間15分

■事業報告

- ① 紹介患者数は4,876人で、目標の94%となった。例年行っている「医療連携の集い」は開催できず、パンフレットやビデオレター配布による診療体制の紹介となった。地域医療支援病院の事務局として、認定要件のチェックおよび外部委員への情報提供業務を担当した。
- ② 入院手続きに係る書類の簡素化を行った。書類記載箇所の50%減を達成した。
- ③ 患者満足度を図る手法の1つであるPX（Patient Experience）を外来患者にも取り入れた。
- ④ コロナ禍にあって、オンラインや非接触サービスの必要性が高まった。オンライン面会のセッティング、さらには次年度稼働に向けたオンライン資格認証システムのプレ運用など新しいサービスを開始した。
- ⑤ タスクシフトが推進される中、事務職からRPAへタスクシフトを引き続き拡張する。
- ⑥ スキルラダーの作成に取り組んだ。スタッフのキャリアアップ、昇級のための具体的な目安とする。ノンテクニカルスキルについても引き続き整備する。

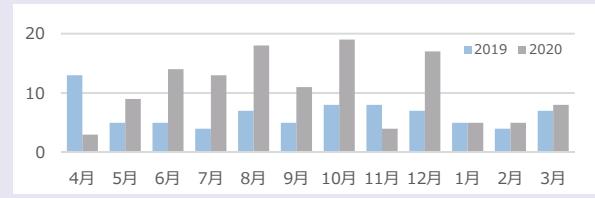
けいじゅサービスセンター 医療福祉相談課

■部門代表者

中川 一美

■2020年度のトピックス

病棟、外来と連携し入院前支援の体制充実を図った。
入院時支援加算126件算定。（昨年度比153%）



■事業報告

- ① 退院支援カンファレンスなど他部門連携の仕方を見直した。入退院支援加算は1,256件算定。（昨年比118%）
- ② 地域や施設のケアマネジャーへオンラインの活用を提案し、途切れないと情報共有を図った。今後も推進していく。

けいじゅサービスセンター 地域連携課

■部門代表者名

宮田 琴江

■2020年度のトピックス

「かかりつけ医」を推奨するチラシを事務部全体で、各課の配布対象者および年間の配布目標に沿って取り組んだ結果、地域医療支援病院承認要件(紹介・逆紹介率)をクリアした。

	サービス課	医療秘書課	医事課	地域連携課	合計
配布目標	4,500	6,000	1,800	28,700	41,000
配布数	5,004	4,826	1,117	28,700	39,647

■事業報告

- ① キャッチコピーを「かかりつけ医と、ときどきけいじゅ」としたチラシを、外来患者及び七尾市・中能登町・志賀町の協力のもと町村配布物と共に各世帯へ直接配布した。
- ② 紹介率は86.3%（前年比+19%）、逆紹介率64.7%（前年比+20.1%）となり、前年度を上回った。
紹介率 2019:67.3%→2020:86.3%
逆紹介率 2019:44.6%→2020:64.7%

けいじゅサービスセンター サービス課

■部門代表者
寺尾 美樹

■2020年度のトピックス

入院申込書類の署名箇所を4ヶ所→2ヶ所に減らした。

書類名	2020年9月まで	署名	2020年10月より	署名
入院申込書（兼誓約書）	申込者署名 患者名または申込者名 緊急連絡先 連帯保証人	● 患者名（患者情報より引用） 申込者署名 緊急連絡先→（新）へ 連帯保証人	●	
実費徴収に関する同意書	患者名または代筆者氏名	● 患者名または代筆者氏名	●	
①情報記入	患者名、連絡先、既往歴等	● 一部を連絡先記入用紙へ移行し、 廃止		
②情報記入	患者名、ADL等	●		
（新）連絡先記入用紙			患者名、情報記入①②の一部等	
署名回数		4		2

■事業報告

- ① 入院申込書類や手続きの簡略化
連絡先記入用紙を新たに作成し、書類を集約した。ワンクリックで全ての書類が印刷され、患者IDと氏名が印字される。
- ② 連帯保証人代行制度の利用促進
予約入院患者の利用率 13%→85%
患者・家族・職員の負担軽減に取り組んだ。

医療情報事務センター 管理課

■部門代表者
松木 尊紀法

■2020年度のトピックス

院内におけるコロナ対応について

項目	
入館許可証の発行	4,000枚
入館禁止・制限の掲示ポスター設置	院内 8ヶ所
面会に関する制限の案内チラシ	100枚/週
コロナ病棟のフィルター交換	1回

■事業報告

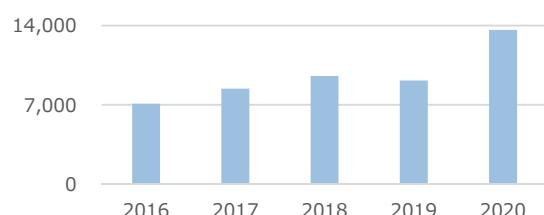
- ① 院内PHS修理・交換 29件（前年比+6件）
PHSに代わる新規導入を検討
- ② プリンター修理・交換 53件（前年比+20件）
- ③ 荒天時の駐車場・玄関間の送迎 5件（前年比±0）

医療情報事務センター 医事課

■部門代表者
松本 伸恵

■2020年度のトピックス

救急医療管理加算1.2算定件数



■事業報告

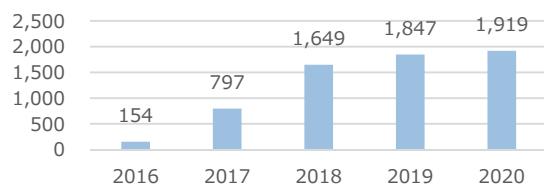
- ① 主に救急医療管理加算に力を入れ、医師との連携を強化した。2019年度より多く算定することができた。
- ② RPA導入に向け、業務分解を行い医事課として2つの業務をRPAで行い、業務負担軽減できた。
- ③ 発熱外来の運用に携わり、予約、受付、精算の流れを構築することができた。

医療情報事務センター 医療秘書課

■部門代表者名
三浦 有紀

■2020年度のトピックス

主治医意見書代行件数の推移



■事業報告

- ① 主治医意見書代行は前年度より72件増、代行入力のみならず調整や問合せ対応まで業務拡大
- ② 救急センターにおける診療情報提供書代行を開始、前年度30件から338件と大幅に件数UP
- ③ 診療情報管理士によるがん登録件数599件

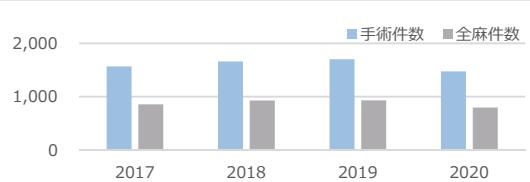
手術センター

■部門代表者

長谷川 公一、金森 敦志

■2020年度のトピックス

4-6月に予定手術のトリアージを行い、手術件数、全身麻酔件数が減少した。



■事業報告

本年度は、4/13-6/6において、新型コロナウイルス感染予防のため、手術のトリアージを行い、手術件数の減少が余儀なくされたが、後期においては術前検査にPCR検査を行い安全を担保したうえで、手術室の稼働率を上げるよう努力した。そのため、手術件数13%減、全身麻酔14%減にとどめることができた。

PET・CTリニアックセンター

■部門代表者

角 弘諭、坂下 純司

■2020年度のトピックス

PET-CT装置を3月に更新した。

新PET-CTの特徴

- ・デジタル（半導体）検出器を搭載し、検出感度向上
- ・デバイスレス呼吸同期機能を搭載し、呼吸性移動のブレを抑える

■事業報告

- ① 放射線治療照射回数は、1,453回（前年比110.3%）であった。
- ② PET-CT件数は、668件（前年比89.3%）であった。
- ③ 核医学検査件数は、369件（前年比97.6%）であった。

血液浄化センター

■部門代表者

向井 清孝、菅野 則之

■2020年度のトピックス



■事業報告

カルテコに透析記録を閲覧できる新機能が追加され、CADA BOXもローレルクリニックに配置された。2020年度の同意数は、透析で25件、ローレルクリニック総数62件であった。透析カルテコの活用方法としては、患者の自己管理の活用だけでなく、服用している薬や最近の治療経過、透析方法やダイアライザ名など、必要な透析条件が提示できる災害管理として活用する。

内視鏡センター

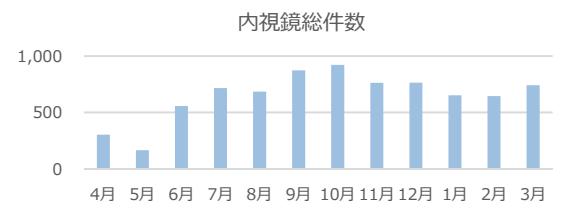
内視鏡課

■部門代表者

守護 晴彦、水口 賢

■2020年度のトピックス

・内視鏡総件数 7,782件実施



■事業報告

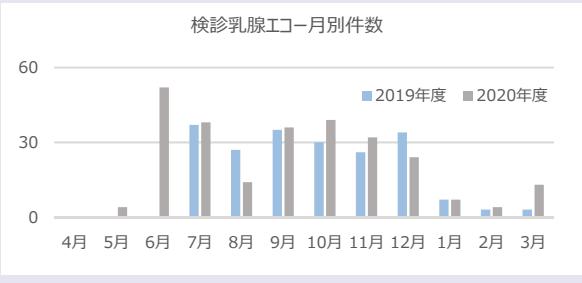
- ① 期首の目標件数は8,000件だったが、コロナによる検査制限があり中間で7,000件に見直しをした。期末では7,782件実施した。
- ② 残業時間が2019年度754.5時間から2020年度453.0時間に減少した。

放射線センター 放射線課

■部門代表者

角 弘諭、坂下 純司

■2020年度のトピックス



■事業報告

- ① 健診乳腺エコーに用いる超音波装置が更新され、検査効率と精度が向上した。
- ② 画像所見の既読管理システムが稼動し、検査依頼医師の電子カルテにレポートの確認を促す通知がされ、画像所見未確認率は0%となっている。

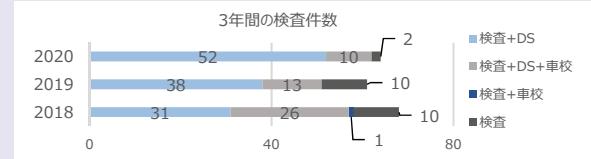
リハビリテーションセンター 作業療法課

■部門代表者名

川北 慎一郎、川上 直子

■2020年度のトピックス

脳損傷者への自動車運転再開支援で神経心理学検査（検査）、ドライビングシミュレーター（DS）、自動車学校での実車評価（車校）を行っている。



■事業報告

- ① 急性期・回復期・生活期の連携として訪問適応を検討するチェックリストを使用開始し紹介システムが充実した。
- ② キャリアアップ・スキルアップ
新たに認定作業療法士を2名が取得した。
- ③ コロナ対策下での自動車運転再開支援
感染対策として退院後に外来で支援することとし、院内ではドライビングシミュレーターの活用が増加した。

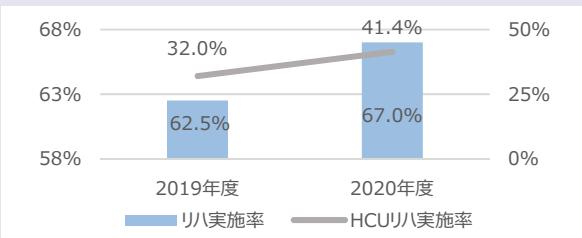
リハビリテーションセンター 理学療法課

■部門代表者名

川北 慎一郎、田中 秀明

■2020年度のトピックス

リハ実施率：5%、HCUリハ実施率：10%向上した。



■事業報告

- ① 消化器外科予定手術患者への、術前リハ実施システムを立ち上げた。リハ実施数が、2019年度：30%から、2020年度：88%と大幅に增加了。
- ② 回復期リハ病棟実績指標が、2019年度：40から、2020年度：52.3に增加了（基準：40以上）。
- ③ 訪問リハ新規利用者数が、2019年度：60人/年から、2020年度：75人/年に增加了。

リハビリテーションセンター 言語療法課

■部門代表者名

川北 慎一郎、諏訪 美幸

■2020年度のトピックス

4月より、新規で呼吸器リハ算定可能となり、104名に対し介入した。



■事業報告

- ① 言語聴覚療法における、療法士一人当たりの月平均単位数は376単位（達成度：104%）であった。
- ② 研究会で7演題（オンライン4含む）発表した。
研修会平均参加数は、14回/療法士数であった。
- ③ 吸痰手技の技術習得後の実践を継続していく。

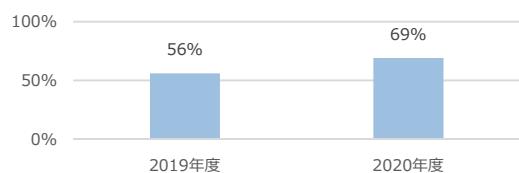
リハビリテーション教育研修センター

■部門代表者

川北 慎一郎、井舟 正秀

■2020年度のトピックス

リハ職員教育研修満足度調査の結果、昨年度より13%向上した。



■事業報告

- ① リハスタッフの成長度合いを見るためリハ共通評価シートを用い、評価した。その結果を分析し、個々の強みや弱みが明確となり、指導ポイントがわかりやすくなった。教育研修満足度は 56%から 69%へと13%向上した。
- ② 臨床データの蓄積（約11,000件）、主にエクセルを用いた各種集計表などを15件作成し、業務効率化を図った。

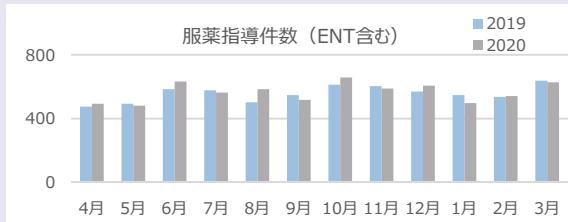
薬剤管理センター 薬剤課

■部門代表者

川村 研二、藤田 昌雄

■2020年度のトピックス

コロナ禍において、入院患者が少ない中、昨年以上指導した。



■事業報告

- ① 服薬指導件数（ENT含む）：
目標550件/月平均⇒566件/月平均 達成率103%
新規診療報酬加算：退院時薬剤情報連携加算
目標50件/年⇒52件/年 達成率104%
- ② 日病薬病院薬学認定薬剤師1名、日本糖尿病療養指導士(更新)1名、学会発表2名、論文執筆1名
- ③ 課題：指導可能な患者すべての服薬指導及び指導対象外の患者の薬学的管理の徹底。各種認定の取得。

栄養管理センター 臨床栄養課

■部門代表者

木元 一仁、前田 美穂

■2020年度のトピックス



■事業報告

- ① 栄養指導の件数は、入院および外来とも前年度と比較し減少した。集団（糖尿病教室の参加人数）は前年度と同程度であった。
- ② 新点数「栄養情報提供加算」は19件/年、通信機器を用いた外来栄養指導は12件/年、実施した。

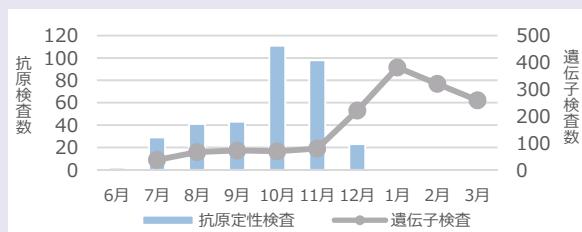
検査管理センター 臨床検査課

■部門代表者

西澤 永晃、尾田 真一

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス検査（抗原定性・遺伝子）の実績



■事業報告

- ① 検体検査総件数 257,146件 前年比 -6.6%
生体検査総件数 30,391件 前年比 -13.8%
- ② 新型コロナウイルスの院内検査体制を構築し、現在、24時間体制で遺伝子検査を実施している。
- ③ 日本臨床衛生検査技師会主催のタスクシフティング業務啓発事業における事前講習（オンライン）を、課員全員受講した。

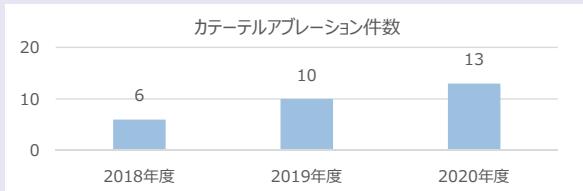
臨床工学センター 臨床工学課

■部門代表者

長谷川 公一、柄原 康則

■2020年度のトピックス

不整脈の代表的な治療方法であるカテーテルアブレーションは、年々増加してスタッフの技術も向上している。



■事業報告

- ① 透析装置システム遠隔監視を導入してトラブル迅速対応に取り組み、部署として医療安全および患者サービス向上に大きく貢献した。
- ② 日本臨床工学技士会の認定臨床実習指導者を取得し、長年担ってきた養成校の臨床実習に対してより一層の自信と使命感を持ち、職業意識の向上や学術研鑽への意欲増進を図った。

医療安全管理センター 医療安全管理課

■部門代表者

岡田 由恵、小谷 薫

■2020年度のトピックス

- ① 新規マニュアル作成（自殺防止マニュアルなど）
- ② 放射線課 「診療用放射線の安全利用のための指針」施行と研修の実施。相互評価実施
- ③ 栄養課 食物アレルギーの対応マニュアル作成研修実施
- ④ 薬剤課 糖尿病治療薬（ビグアナイド系）とヨード造影剤使用時の注意啓発、自己注射等患者へ使用後の針の管理と指導

■事業報告

- ① リスクマネジャーとの協働によるマニュアルの作成実施。（新規3 見直し1）
- ② 全部署への重要警鐘事例、Goodjob報告が定着した。
- ③ 各部署からのGoodjobを機関紙「医の用心」に掲載。
- ④ 病棟リスクマネジャー、主任の「タイムアウト」現状調査、延べ220回の調査実施。
- ⑤ 新入職者のレポート提出を定着させた。(2020:70件)

医療安全管理センター 感染制御課

■部門代表者

山崎 雅英、谷田部 美千代

■2020年度のトピックス

- ① 新型コロナウイルス感染症の院内クラスター発生による病床使用停止がなかった。
- ② 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れによる、職員や患者の院内感染の発症がなかった。
- ③ 新設したプレハブによる発熱外来棟の運用を開始できた。

■事業報告

- ① 新型コロナウイルス感染防止対策のマニュアルを電子カルテに掲載し、最新情報が閲覧できるように整備した。
- ② 石川県の新型コロナウイルス感染症に係る病床の確保について、フェーズ2（感染拡大時）の時点で、10床の病床確保、陽性者受け入れを精力的にサポートした。
- ③ プレハブ発熱外来運用について、精力的にサポートした。

臨床研修センター

■部門代表者

新井 隆成、松木 尊紀法

■2020年度のトピックス

臨床研修医の推移

	2016	2017	2018	2019	2020
1年次基幹型	4	1	6	5	5
1年次協力型	2	2	1	2	2
2年次基幹型	3	4	1	6	5

■事業報告

- ① 対面での病院説明会（レジナビフェア等）はすべて中止となった。代わりにオンラインでの病院説明会に出展し、医学生へ当院の紹介、研修プログラムのアピールをした。
- ② 2021年4月採用の研修医は5名/募集定員5名のフルマッチとなった。
- ③ 2年次5名が修了。

看護師特定行為研修センター

■部門代表者

鎌田 徹、本橋 敏美、松木 尊紀法

■2020年度のトピックス

特定行為研修受講生の推移

	第1期生 2016年 10月	第2期生 2017年 10月	第3期生 2018年 10月	第4期生 2019年 10月	第5期生 2020年 10月
院内	5	6	5	7	5
院外	0	1	1	2	0

■部門代表者

- ① 9月30日 第4期生9名が修了した。うち外部から2名を受け入れた。4期修了時点で当院から合計23名が修了した。
- ② 10月1日 第5期生5名の受講を開始した。2020年10月1日から2021年3月31日までは共通科目、2021年4月1日からは区別科目を実施予定。

医療事業統括部門
恵寿金沢病院

恵寿金沢病院

■病院長

上田 幹夫

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄された1年だった。当院は血液癌患者が多い小さな規模の病院でコロナ診療は不向きなため、コロナ診療をする大病院のバックアップ病院として機能した。当院は従来癌化学療法が得意な病院である。今年度は、乳癌専門医の道輪先生が外科に着任され乳癌化学療法が開始されたことと、治療薬が多く開発された骨髄腫患者の治療介入が増えたことにより、癌化学療法は大幅に増加した。



■事業報告

- ① 夏から冬にかけて血液癌患者の紹介増加により病床がひっ迫し、二次救急の受け入れ困難が続くこともあった。1月以降は病院のマンパワーが低下したこともあるが、紹介患者は激減し空床が目立った。コロナ禍で一般市民が受診や健診を控えた事により癌の診断遅れが指摘されているが、その表れの可能性がある。
- ② 入院患者数：23,892人（前年比：96.2%）
- ③ 外来患者数：26,239人（前年比：82.3%）
- ④ 人間ドック受験者数：2,078件
(前年比：92.9%)
- ⑤ 全身麻酔手術件数：61件（前年比：70.1%）
- ⑥ 化学療法実施件数：4,629件
(前年比：105.6%)
- ⑦ 無菌室利用件数：4,061件（前年比：103.5%）
- ⑧ 紹介件数：685件（前年比：87.4%）
- ⑨ 救急車受入件数：69件（前年比：77.5%）
- ⑩ 巡回インフルエンザ予防接種件数：1,315件
(前年比：69.8%)

内科

■所属医師

村田 了一、山下 剛史、宗本 早織、水牧 祐希

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症の診療に伴い病床数の削減を余儀なくされた他院の受け入れ先となることで入院患者数が増加した。これらの病院への紹介が困難となったことで、開業医や血液内科併設のない病院から当院への直接紹介が増えた。これを速やかに受け入れることで以後も血液疾患が発生したときに当院を第1選択として紹介いただける案件が出てきている。

■事業報告

- ① 入院患者数：20,103人
(前年比：138人増加、100.7%)
- ② 外来患者数：10,735人
(前年比：609人減少、94.6%)

血液疾患センター

■所属医師

村田 了一、山下 剛史、宗本 早織、水牧 祐希

■2020年度のトピックス

センターの名にふさわしい、常に最新のエビデンスに基づいた治療を提供し続けている。大学との連携により臨床試験への参加も増加しつつある。北陸地区造血幹細胞移植医療体制事業に参加し、同種移植が円滑に進められるよう他院との連携を構築中である。

■事業報告

- ① 骨髄腫センター立ち上げの準備を進め、金沢大学融合研究域融合科学系教室との協力関係を結んだ。これにより微小残存病変の解析など、骨髄腫領域の共同研究が可能となった。
- ② 入院化学療法 3,600件
(前年比：40件減少、98.9%)
- ③ 外来化学療法 878件
(前年比：133件増加、117.9%)

整形外科・リウマチ科

■所属医師

沼田 優平

■2020年度のトピックス

病診連携により力を入れており、金沢市内に限らず、他の地区からでも手術適応の方を紹介いただければ、対応できる体制を整えている。

紹介いただいた患者さんに対しては、早期に手術・処置を行い、速やかに紹介元に逆紹介させていただくことを当科の特徴として、今後も病診連携を進めていきたい。

■事業報告

- ① 入院患者数：2,562人（前年比：55.5%）
- ② 外来患者数：8,485人（前年比：64.9%）
- ③ 手術件数：73件（前年比：46.8%）

※7月に常勤医師2名→1名に減少

外科

■所属医師

道輪 良男

■2020年度のトピックス

本年度より常勤医1名の状態で本格的に外科診療再開となった。一般外科（消化器）、乳腺外科を中心に治療を行い、当院で対応可能な症例に対しては積極的に手術を行い、対応困難な場合には近隣病院と連携した。薬物療法も主に外来化学療法として行い、緩和治療目的の症例に対しても迅速に対応した。

眼科

■所属医師

縹納 勉

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルスに関しての全国的な緊急事態宣言があり、手術が制約される期間があったが、従来からの涙道手術を中心に、白内障手術、角膜前眼部手術を積極的に行い、手術件数を維持した。

	2019年度	2020年度
手術件数	202件	178件

■事業報告

- ① 入院患者数：268人（前年比：102.3%）
- ② 外来患者数：2,105人（前年比：80.1%）
- ③ 手術件数：178件（前年比：88.1%）

理学療法課

■部門代表者

柴田 真行

■2020年度のトピックス

訪問リハ対象者の増加を目指し院外宣伝、院内との連携を図り、対象者が増加した。

	2019年度	2020年度
訪問リハ利用人数	16人	19人
訪問リハ実施延べ件数	68件	78件
訪問リハ実施延べ回数	127回	146回
訪問リハスタッフ数	2人	2人

※数値は月平均値

■事業報告

- ① 訪問リハ対象者を増加できるよう、ケアマネジャーへの宣伝や院内スタッフと連携し、カンファレンス等での訪問リハ対象者の抽出などを行った。
- ② 運動器疾患者へ、超音波画像装置を用いて身体機能の問題点や治療の効果を可視化し実施した。

作業療法課

■部門代表者

米山 千尋

■2020年度のトピックス

がんリハ対象者の新規獲得を図り、取得単位数が増加した。

	2019年度	2020年度
がんリハ算定総単位数	4,663	5,172
OTスタッフ数	2.5	2.25

■事業報告

- ① 各病棟カンファレンス、NSTカンファレンスに参加し、新規リハ対象者の獲得に繋げ、がんリハ算定単位数が増加した。
- ② 訪問リハ対象者の検討を行い、当院退院後の訪問リハビリ新規利用者数が増加した。(2019年度4人→2020年度9人)
- ③ タブレットで動画撮影を行い、家族への状況説明や介護指導に利用した。

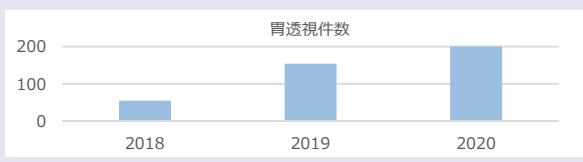
放射線課

■部門代表者

武村 真弓

■2020年度のトピックス

TQM活動で鎮痙剤を使用しない胃透視検査をテーマに活動した。結果として検査時間・待ち時間の短縮、経費削減につながった。



■事業報告

- ① マンモグラフィ検診 施設・画像認定 更新
- ② マンモグラフィ件数：911件（前年比112%）
- ③ CT 件数：2,671件（前年比102%）
- ④ 超音波件数：2,510件（前年比 97%）
- ⑤ 胃透視検査件数：211件（前年比139%）

臨床検査課

■部門代表者

長面 佳央理

■2020年度のトピックス

臨床検査技師による骨髄像カウントを開始した。



■事業報告

- ① 今まで内科医師が行っていた骨髄像カウント業務をタスクシフトし、検査技師で行うようになった。
- ② TQM活動において、生化学業務の効率化を目指した取り組みを行い、採血から結果報告までの所要時間を約15分短縮することができた。

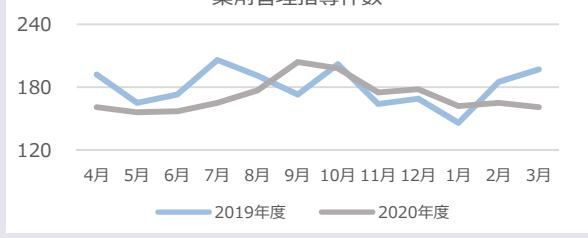
薬剤課

■部門代表者

宮森 久志

■2020年度のトピックス

薬剤管理指導件数



■事業報告

- ① 薬学部実習生1名の受け入れ
- ② 外科化学療法を抗癌剤プロトコルシステムに組み込み、運用を開始
- ③ 院内向けにCOVID-19に関わる特設ページを開設
- ④ 無菌製剤処理料（抗癌剤）3,687件/年
- ⑤ 病棟薬剤業務実施加算 4,199件/年

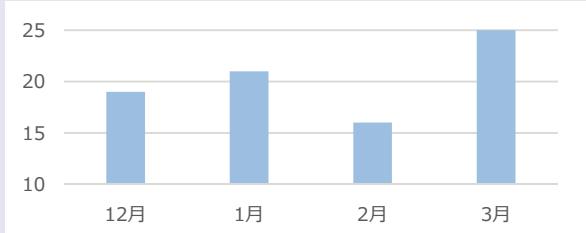
臨床栄養課

■部門代表者

羽根 由子

■2020年度のトピックス

NSTカンファレンス実施件数



■事業報告

① NST発足へ向けた取り組み

週1回各病棟でのカンファレンスを開催した。
2020年12月～2021年3月までに81件実施した。
資料配布による勉強会を実施し、多職種への栄養管理への関心を高めるアプローチをした。

人間ドックセンター

■所属医師

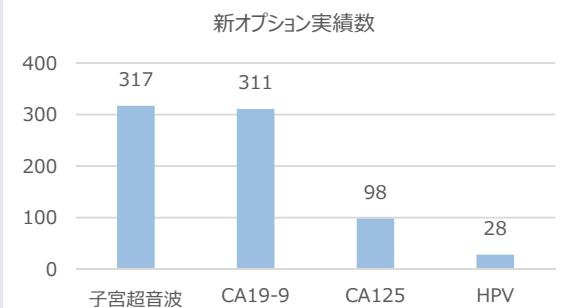
佐賀 務、森 清男、豊田 絵子

■2020年度のトピックス

人間ドック受検者数 2,078人（前年度 2,217人）

男女比率 男性58.5% 女性41.5%

新たにオプションメニューを4項目追加。子宮超音波検査、CA19-9検査は、全20項目メニューの上位の申し込み数となつた。



- ① 2020年度は、人間ドックでも新型コロナ感染症の影響を受け、内視鏡検査の感染予防対策の厳格化などで、開始が7月にずれ込んだ。2ヶ月のブランクはもともと余裕のない定員枠をフルに拡大しても吸収しきれず、受検者数は2217人から2078人と-6.3%減少した。とはいえる2019年度は2018年度より+43%も増加しており、よく踏みとどまつともいえる。
- ② 受検者数減少は男性が主体で、女性は横ばい～軽度増加した。婦人科検診を当院でも実施できるようにしたことが理由と考えられる。子宮超音波など婦人科検診を補強、同オプション4項目を追加でき、コロナの逆風にもかかわらず女性の受検者が増加した。
- ③ ドック担当医として豊田先生が就任された。質の高いフィードバック診察は好評でドック診療の質は確実に向正在しているといえる。
- ④ 引き続きNTT西日本北陸健康管理センターの産業医も受託、継続している。検診、ドック精査として当院外来初診患者数増加に貢献している。また、人間ドックセンターの業務拡大を目指す場合、産業医業務は有望な分野であることを強調しておきたい。

看護部

■部門代表者
前大道 紗子

■2020年度のトピックス

外科医師が常勤となり、外来化学療法も昨年度よりさらに件数が増加した。入退院支援グループ、認知症看護グループを立ち上げ活動を開始した。外来フットケアスクリーニング開始し、フットケアに取り組んだ。診療報酬改定に伴い重症度、医療・看護必要度の要件を満たす割合が、昨年度より增加了。



■事業報告

- ① 新型コロナウイルス感染症対策として発熱外来を設置し、日中、夜間とも必要時対応した。
- ② 外科手術の再開
病棟での疾患・看護勉強会の開催
手術室看護師の恵寿総合病院での研修
- ③ 重症度、医療・看護必要度
診療報酬の改定で、該当割合が減少するかと予想したが、医師の協力や監査の精度を上げ35%～45.3%平均40.9% となつた。
- ④ 新グループの立ち上げ
入退院支援グループ：患者の入院前からの情報を病棟へつなぎ早期退院へ向けての取り組み、退院時の不安解消、退院後の状況観察とつながる看護を目指し取り組み開始。
認知症看護グループ：認知症の理解、せん妄への対応、認知症ケア加算への取り組みを目的に立ち上げ。知識向上のためグループ内の勉強会実施中。
- ⑤ 看護部署内、他部署の応援体制の取り組み
人員の不足した部署へ、看護部内から日々の業務応援、夜勤応援をはじめ他部署からは、シーツ交換、電話対応などの応援を構築した。

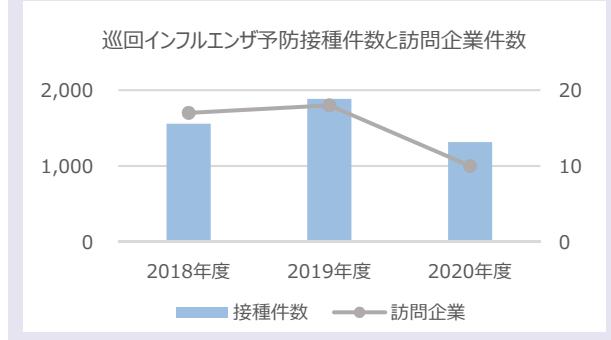
事務部

■部門代表者
森田 均

■2020年度のトピックス

コロナ禍において、患者・職員が安心して受診・診療できるように様々な感染予防対策を実施した。

11月には金沢市を中心に事業展開している通信事業者の要望に応え、企業のコールセンターを巡回し、インフルエンザ予防接種を実施。（例年、金沢市外でも実施していたが、コロナの影響で金沢市内のみ限定実施）



■事業報告

- ① 地域連携課では、地域のコロナ患者受け入れ病院の病床を緩和する為の窓口として、当院の対象となる血液がん疾患、乳がん疾患、整形外科疾患、眼科疾患の患者を積極的に受け入れ、地域医療構想における機能分化としての受け皿機能を果たした。
- ② 医事課では、受付・会計において、来院された全ての方に手指消毒・非接触体温測定・マスク着用を徹底、手押し車、車椅子や待合椅子などの小まめな除菌も行うなど、患者・職員・地域の感染予防に努めた。また昨年度より導入したQRコード決済を積極的にアピールし、患者の利便性向上を図った。
- ③ 管理課では「食の力で元気を」というテーマで地域の飲食店と連携した職員向けの限定ランチやパンなど手配し、職員の活力アップに繋げるとともに、人間ドックセンターとの連携で、ドック受検者向けに、昼食時の外食プラン店舗を拡大・提供し、好評を得た。コロナ禍の中で地域飲食店の活性化・社会貢献にも繋げた。

医療事業統括部門 クリニック

田鶴浜診療所

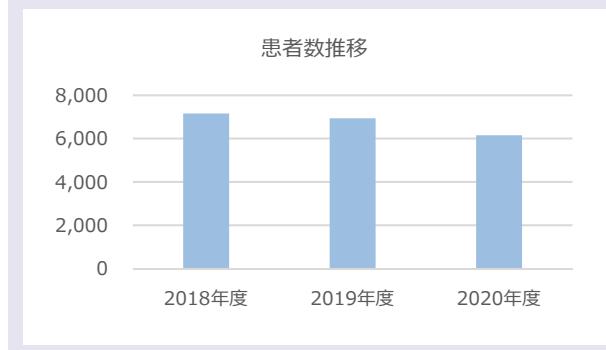
■所属医師

廣正 修一

■2020年度のトピックス

コロナ禍での受診控え、長期処方希望により、診察患者数は大幅に減少した。その中で、患者の訴えを多面的に聞き評価し、相談に乗るように努めた。

- ・患者数：6,151人（前年比：87.0%）
- ・一日あたり患者数：26人（前年比：89.7%）
- ・売上　目標比：100%



■事業報告

- ① コロナ禍の中で患者さんが何を求めているのかを最も重要な点と考え診察に当たった。具体的には患者さんと話し合い、検査の予定などを決め、患者さんの全身的な疾患に対する相談や精神的な悩みの相談等、多面的な相談に乗るように努めている。
- ② また、一人ひとりの話に耳を傾け、検査結果上、改善した点や良い点は積極的に褒め、問題点に対しては改善するために何ができるのかを話し合い、今後の改善すべき点などに関し、共に頑張っていこうと励ましながら、問題を取り組んでいる。その結果、患者数は減少したが、売り上げは目標比を達成できた。
- ③ 検査件数
定期的に検査を実施し、疾病管理を確実に行ってい
る。
 - ・レントゲン：1,129件（前年比：115.8%）
 - ・心電図：914件（前年比：103.5%）
 - ・採血：2,023件（前年比：96.6%）
 - ・骨密度：618件（前年比：92.9%）
 - ・ABI：639件（前年比：88.6%）

鳥屋診療所いきいき

■所属医師

斎藤 靖人、中谷 茂和

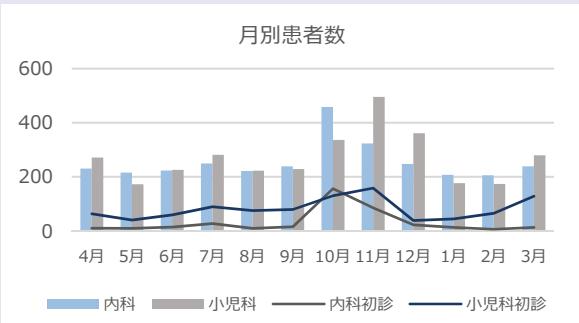
■2020年度のトピックス

① 鳥屋診療所

患者に寄り添った診療を行い、定期検査を抜けなく行い
疾病管理を強化した。発熱外来を開始した。

② いきいき

新しいエアロバイクを導入し、乗降がしやすいタイプのため
利用可能な利用者が増加した。



■事業報告

① 鳥屋診療所

総患者数は、6,273人で、前年7,986人より減少した
が、予防接種・検診数が前年度比28.8%増加した。
地域唯一の小児科があるため新患、再来ともに患者数
を増やしていきたい。今後も継続して、診察のみ患者に
対して、定期的な検査等を行い、疾病管理を確実に
行っていく。

② いきいき

延利用者数は、2,184人で、前年度比2%減、稼働
率も前年より9.2%低下し、目標を下回った。その人ら
しさを取り戻し、より自立に日常生活を送ることを目標
としたリハビリを行っていることで、卒業できた利用者から
は好評価を得ているので、強みとしてアピールして利用
者増につなげていきたい。また、コロナ禍で開催回数は
減ったが高齢者サロンでの講師を2回行っており、董仙
会のアピールも行っている。

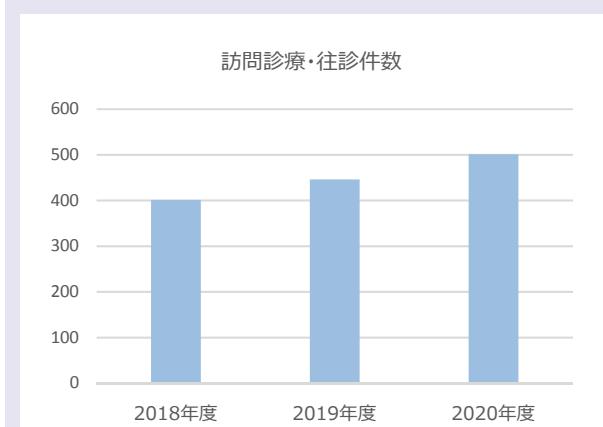
恵寿ローレルクリニック

■所属医師

吉岡 哲也

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症により患者数が減少する中、通院
することが困難な患者の自宅に訪問し、健康管理のため診
療や指導を行った。



■事業報告

① 総患者数：8,713人（前年比：92.7%）

② 訪問診療・往診件数：501件（前年比：112.3%）

③ 地域交流

11月にみそぎ地区コミュニティセンターにて講演会「新型
コロナウイルスとインフルエンザを学ぼう」を行った。当日は
窓を開けて十分換気を行った会場にて、37名の方にご
参加いただいた。

④ 新型コロナウイルス感染症対策

受付にアクリル板を設置、フェイスシールドやマスクの着用、
手指消毒、自動体温測定器を設置するなど、安心して
診療を受けていただけるように対策を講じている。

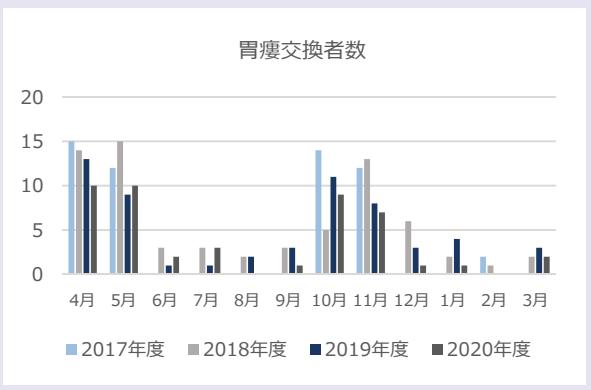
恵寿鳩ヶ丘クリニック

■所属医師

宮本 正俊

■2020年度のトピックス

患者数630人（2019年度689人、2018年度750人）
内、胃瘻交換者数が2020年度46人、2019年度58人、
2018年度69人となっている。
診察時には新型コロナ等感染予防対策として、フェイスシール
ドやゴーグル、マスクの着用、手指消毒の徹底を行った。



■事業報告

- ① 2018年より介護療養型老人保健施設から転換した「介護医療院恵寿鳩ヶ丘」の併設医療機関として、主に入所者のレントゲン一般・CT撮影を行い、病気の早期発見・治療に努めた。
- ② 入所者の胃瘻交換及び経鼻経管栄養患者の胃管カテーテル交換後の造影撮影等を行った。
- ③ 徳充会穴水ライフサポートセンターの入所者の嘱託医として診察・検査・処方を行い、健康管理に努めた。診察・検査の結果、専門医療機関への受診が必要と判断された方については、恵寿総合病院はじめ地域の医療機関と連携を図った。
- ④ 穴水町の特定健診事業及び近隣市町のインフルエンザワクチン・肺炎球菌ワクチン等の予防接種事業に参加し地域住民への予防医療に努めた。

介護事業統括部門

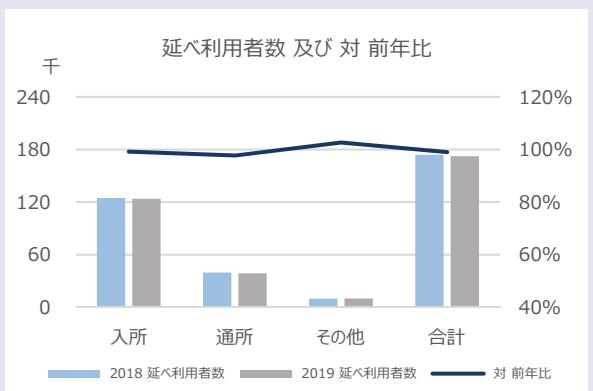
介護事業統括部門

■部門代表者

吉田 茂和

■2020年度のトピックス

本年度は新型コロナウイルスの感染防止対策に終始した。特に春先、全国的な不安感から在宅サービスの利用控えが広がり利用者数が大きく落ち込んだが、その後、精力的に対策に取り組んだ結果、下期には基本的な対応が定着し、年度末にはほぼ前年度並みまで回復させることができた。



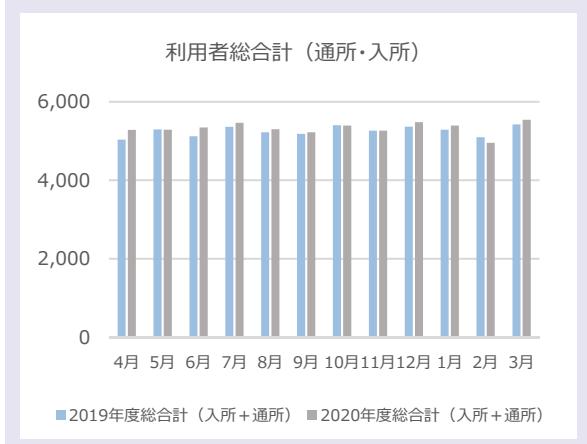
介護老人保健施設 和光苑

■部門代表者

渡邊 博之、奥本 健司

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルスが全国的に蔓延する中、通所リハビリテーションにおいては4月、5月と利用者数が減少したが、その後回復すると共に入所については、ベットコントロールが上手く回せたおかげで、高稼働率を維持できた。



■事業報告

- ① 新型コロナウイルス対応（オンライン環境の充実）
新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、感染予防対策として職員教育に併せ、オンラインを活用した。面会やカンファレンス・会議・委員会の開催など、Wi-Fiを活用したオンライン環境の整備を進めた。
- ② 介護課長の誕生
介護職員が担う責任や役割の重要性から、これまでその社会的地位向上や待遇改善に取り組んできたが、今年度和光苑に初めて介護課長が誕生し、介護職の未来を拓く第一歩を踏み出した。
- ③ 「Foot活プロジェクト」セカンドステージ
昨年度からスタートした「Foot活プロジェクト」をさらに推し進めるため、今年度は「Foot活マイスター研修」を実施し“Foot活マイスター”的養成を行った。
- ④ 外国人技能実習生の受け入れ
新型コロナウイルスの影響などもあり、受け入れが遅れていた技能実習生について、和光苑での受け入れを開始した。コロナ禍ではあるが、今後の第二陣も予定している。
- ⑤ 情報誌『かいGO!』の発行
けいじゅヘルスケアシステム内の情報共有及び職員に広く介護の活動を知って頂くため情報誌の発行を開始した。

■事業報告

- ① 今期目標と達成度
 - 入所稼働率98.2%（前年比 +1.6%）
 - 通所稼働率82.2%（前年比 +1.5%）
 - 短期集中リハビリ加算 5,155件（昨年比+160）
 - 認知症 “ 1,826件（昨年比+45）
 - 所定疾患療養費 589件（昨年比+89）
 - 療養食加算 99,874件（昨年比+2,019）
- ② 新たな取り組み
 - オンライン面会（LINE・Teams利用）
 - 産総研とのコラボ（ケアデイギニティーの開発）
 - 施設内リーダー研修（役職者）
 - 技能実習生受け入れ（インドネシア）介護補助者2名
 - ランチョンセミナー（褥瘡について）
 - リハビリ機器の導入（エアロバイク、トレッドミル等）
- ③ 今後の課題
 - 今年度の入所稼働率は1年を通じて高稼働率を維持することが出来た。在宅復帰に関しても6名の方が在宅に戻られており、今後この成功体験を生かし、もっと増やしていくと共に地域貢献に向けて、「介護何でも相談室」を開設し、地域住民に寄り添った、開かれた施設を目指していく。また、外国からの技能実習生の受け入れを増やすよう体制を整える。

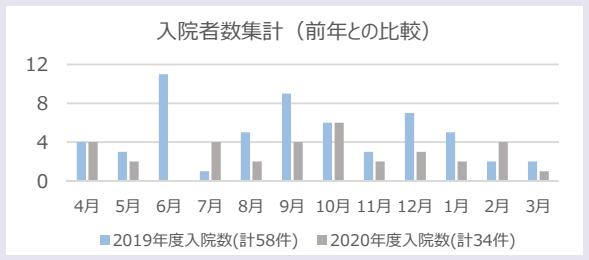
介護老人保健施設 鶴友苑

■部門代表者

廣正 修一、古木 恵実子

■2020年度のトピックス

新しい施設長に変わって3年目の2020年度は、①「本質を大切にして優しさを提供し、相手の良い面を見よう」という点を継続し、②「利用者の変化を早めに気づき、対処してあげよう」という新しいポイントを取り組んだ。利用者の良い点を積極的に褒めてあげるように努め、何か変化が有りそうに感じる時にはためらわず、施設に隣接する診療所で早めにスクリーニング検査をした。その結果、入所者の入院が減少した（昨年比24件減）。



■事業報告

① 利用者数（入所+通所）

総利用延人数：23,396名（前年比1.8%減）

短期集中リハビリ加算：1,715件（前年比+116）

認知症 “ ” : 559件（前年比+94）

ターミナル加算：60件（前年比+60）

褥瘡ケア加算：197件（前年比+43）

② コロナ禍による無料アプリLINEでの面会通話：32件

③ 「Foot活プロジェクト」歩き方の測定や体操実施

Foot活マイスター研修修了 1名

「活動プロジェクト」タブレットを使ったレクリエーション、「ノーリフト介護」の取り組み

④ 行事関係、クラブ活動

大スクリーンで演芸会、梅ジュース作り、縁日(ゲーム大会)、かき氷、暑中見舞いはがき作り、ペットボトル風鈴制作、秋祭り、レクリエーション大会、クリスマスケーキ作り、書初め大会、初詣、正月遊び、節分大会、お茶会

⑤ 実習関係

田鶴浜高校（看護・介護学科）

⑥ ボランティア関係

紙芝居

介護医療院 恵寿鳩ヶ丘

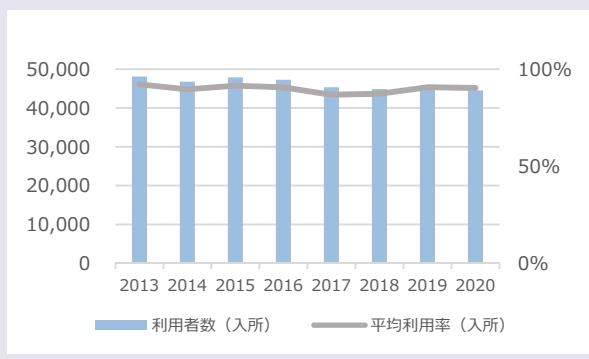
■部門代表者

宮本 正俊、岡田 亮一

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図り、安心安全を追及した1年だった。

また職員自らの意欲を高めるため、自分たちでしてみたいことのアンケートを行い、関心の集まったテーマのもとグループワークを重ね、特に介護医療院の強みでもあるACPのとりくみについて議論した。



■事業報告

① 年間延べ利用者数：44,498名（前年比99.3%）

② 新型コロナ感染症対策の徹底

・本院感染制御課医師と認定看護師の施設内巡回

・上記を踏まえた全職員研修（防護具のつけ方など）

・ゾーニングの検討と実施（入所・通所エリア区分け）

③ ご利用者・ご家族の会えないことのストレスへの対応

・オンライン面会の導入（1日平均4-5件）

④ 「鳩ヶ丘の良いところ、伸ばしたいところ、してみたいこと」の意見交換会の実施。アンケートから特に多かった「アドバンスドケアプランニング」について議論を重ねた。

人生の最期にしたいこと（お食い締め）の取り組み等

⑤ ノーリフト介護（持ち上げない介護）のさらなる推進

車イス型個浴槽導入定着…利用者職員双方に笑顔
マスタートライド・フレックスボードなどの移乗用具増

ストレッチャーを増設 平行移乗の実践定着

⑥ 理学療法・作業療法リハビリ体制強化加算継続

リハビリ機器（トレッドミル等）の追加導入

「Foot活マイスター」研修修了 1名

⑦ シルバー世代の方の積極的採用で多様な働き方定着

介護専門職との役割分担の見直し

在宅複合施設 ほのぼの

■部門代表者

諏訪 勝志

■2020年度のトピックス

見える化された介護技術マニュアル作成およびノーリフティング移乗方法の統一のために動画マニュアルを作成し、より質の高い介護の提供に努力した。（TQM大会 優秀賞）
また、1名がFoot活マイスター研修を修了し、Foot活体操を毎日取り入れている。

介護技術動画マニュアル作成リスト	作成数
リフト車リフトの使用方法、注意点	1
おむつ交換	1
食事介助	1
一般的ノーリフティング移乗方法 (居室・浴室)	2
利用者ごとのノーリフティング移乗方法	5

■事業報告

① 今期目標と達成度

稼働率90%を目標（通所介護・短期入所）

通所介護：77.4% 達成率86.0%

短期入所：74.5% 達成率82.8%

新型コロナによる自粛と冬期の大雪の影響で稼働率が伸び悩み目標達成できなかった。

② 教育研修

1名がFoot活マイスター研修を修了し、Foot活を積極的に取り入れている。介護キャリア段位制度、認知症などのオンライン研修など、スキルアップのために個々で研修に参加している。また、介護技術向上のため介護マニュアルの見える化（ビデオ制作）も行い、日々の介護技術見直しを図っている。

③ 今後の課題

介護技術の全体的向上と施設の強みをアピールし、利用したい施設を目指し、稼働率向上に努める。通所介護では、在宅生活が継続でき、より元気になってもらうためにFoot活プロジェクトを積極的に行っていく。短期入所では、喀痰・吸引など医療依存度の高い利用者、退院後で病状などの不安定な利用者の受入も検討し、職員教育を行っていく必要がある。

デイサービスセンター いこい

■部門代表者

愛徳 亜矢

■2020年度のトピックス

Foot活、歩かん会の取り組み（TQM大会 優秀賞）を実施しスタンブラーと認定証によりモチベーションアップに成功。
12月にお楽しみ会を開催し利用者による「ハーモニカショー」「レクダンス」「紙芝居」を実現した。



■事業報告

① 目標稼働率：85%

実績：平均76.6%

達成度：90.1%

年度当初のコロナによる自粛と、1月の大雪により稼働率が大きく低下したが、数年ぶりに80%を超える月もあり、なんとか前年を若干上回る程度まで回復できた。

② Foot活マイスター 1名 研修終了

Foot活マイスターが中心となり、Foot活体操やラダー歩行練習に力を入れ、毎日行っている。
合わせて、歩かん会の活動や、健康運動指導士による体操が、利用者のモチベーションとなっており、利用回数の増加にもつながった。

③ 今後の課題

- ・新規利用者の獲得、加算の取得
- ・コロナ禍により、参加できなかった研修への参加
- ・ITの活用、学習

けいじゅ一本杉

■部門代表者

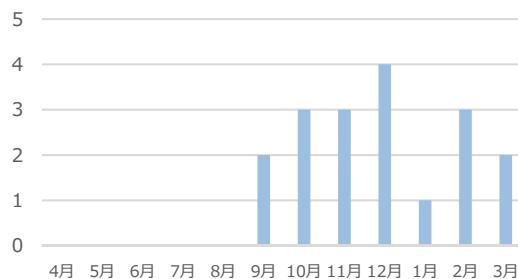
高木 ひとみ

■2020年度のトピックス

小規模らしさを見直し、一步前に！

ポイント制でご利用者の幸福度アップを目指し、8月より取り組みを開始した。50ポイントで商品と交換できるようにしたところ、ドライブや手作りマスクが人気だった。ご利用者のモチベーションアップに繋がった。

50ポイント獲得者数



■事業報告

- ① 目標登録者数 26名 実績 月平均20.9名
達成度 84.2%
- ② 「一本杉Café」
感染対策を徹底し再開
交流スペースは目隠しシートを外しロールカーテンに
玄関先にお花を設え、明るくイメージチェンジ！
5月 卓球大会
6月 フラワーアレンジメント
一本杉町公園草むしりに参加
7月 一本杉カフェ再開
8月 ポイント制開始
9月 マスク制作/お茶会/書道教室
10月 誕生日ドライブ
12月 柚子みそ・ぶりかけ作り
1月 みそ作り
- ③ ベッドコントロールで、泊まり中心の利用者が入所された。
今後も病院・施設と連携し、調整していきたい。
- ④ 登録者数を増やすことが優先課題。

恵寿みおや

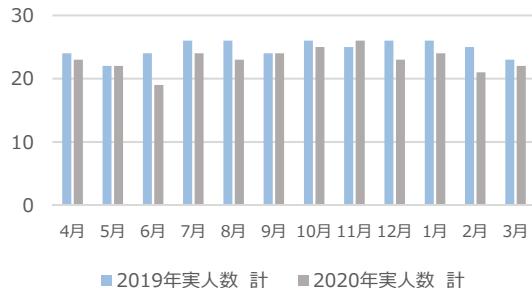
■部門代表者

筒井 静恵

■2020年度のトピックス

前期に新規の受け入れが少なく登録者数も伸び悩んでいた。後期にむかい新規も受け入れていて、入院や入所などでの登録解除が続き、前年度に及ばない状況となったが、年度末に向けて新規の相談も増えて登録者の増加も見込まれている。

登録者比較表



■事業報告

- ① 登録者数
目標登録者数 29名
実績 月平均 23名
達成度 79.3%
- ② 認知症みらいカフェ
職員講師によるカフェの開催（5回）
7月「フラワーアレンジメント」
10月「可愛いリース作りをしよう」
11月「水引で箸置き作り」
1月「腸活ミニレクチャー」
2月「アクリルたわしを作りましょう」
- ③ 資格取得
健康予防管理専門士 1名

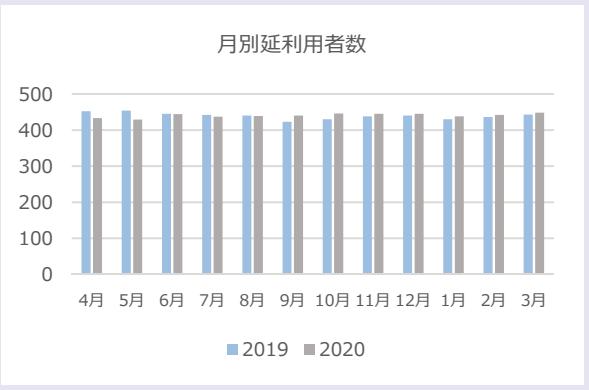
ケアマネステーション恵寿

■部門代表者

高松 由紀子

■2020年度のトピックス

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、4月・5月は利用者のサービス利用控えや新規利用者数が減少したが、6月以降は回復してきた。また、感染予防のため利用者・家族やサービス事業所担当者との接触の機会を減らし、オンラインによるサービス担当者会議を開始した。



■事業報告

- ① 年間延べ利用者数 5,286名
(予防751名、介護4,535名)
前年比100.2%
全体としては前年度と比較して利用者数は変化なかったが、予防の利用者数が114名増加し、介護は101名減少した。
- ② 加算の取得状況
 - ・初回加算 163件（前年度 154件）
 - ・入院時情報連携加算 211件（前年度 229件）
 - ・退院、退所加算 204件（前年度 196件）
- ③ 『恵寿まるわかりブック』を活用した在宅サービスの紹介
恵寿ヘルスケアシステムにおける各サービス事業所のリーフレットを使用して、利用者・家族にサービス内容の紹介・説明を行ったことで、具体的にわかりやすく内容を伝えることができ、サービスの利用に繋げることができた。

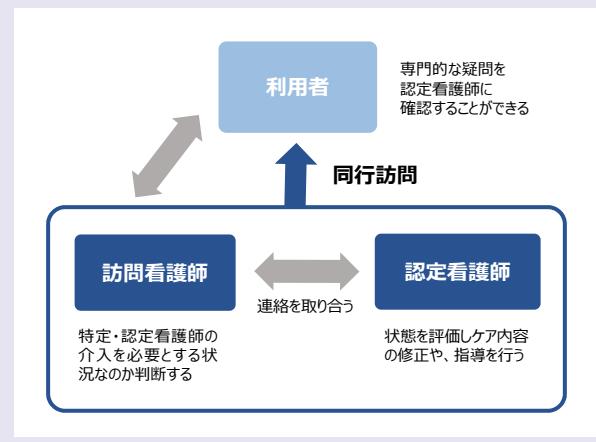
恵寿総合病院訪問看護ステーション

■部門代表者

久能 恵美

■2020年度のトピックス

当訪問看護ステーションの強みである【特定・認定看護師に相談しやすい】との面を生かし、それらを必要とした利用者宅へ認定看護師と同行した。そして助言・指導をうけてその後の看護に活かす取り組みを実施した。



■事業報告

- ① 2020年度延べ利用者数：498人
2019年度は414人であり、前年度比20%増となった。
- ② コロナ禍での感染対策基準の設定
コロナ禍の現状でも利用者は訪問看護を必要としている為、実施する処置別に感染対策基準を作成し、実施している。
- ③ 能登地区訪問看護ステーション連絡会研修会の実施
当院の糖尿病療養指導士を有する看護師からの依頼によりオンラインで研修会を開催した。
- ④ 認定看護師との連携
4名の利用者に実施。慢性呼吸器疾患看護認定看護師に2名、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師に2名を依頼し評価していただいた。NIPPVのチェックポイントの周知や呼吸状態の評価や、嚥下状態の評価をしたうえで口腔体操の立案、実施までできた。

訪問リハビリステーション恵寿

■部門代表者

川北 慎一郎、小川 正人、藤井 麗子

■2020年度のトピックス

訪問リハビリテーション（リハ）新規利用者数が、2019年度60件から、2020年度 75件へと増加した。恵寿総合病院回復期リハ病棟からの紹介者数を増やしたことにより、訪問リハビリテーション適応者が増加した。



■事業報告

- ① 訪問リハ紹介チェックリストを作成し、回復期リハ病棟および地域包括ケア病棟で導入した。院内リハスタッフからの紹介相談件数が2019年度 55件、2020年度 138件と増加し、新規利用者の増加につながった。
- ② 訪問リハ紹介チェックリストを活用することで、病院と訪問リハスタッフ間の情報共有が促進、退院支援の選択肢が増加した。在宅支援を考える上で、スタッフ教育に有益であった。
- ③ 新規利用者増に伴い、短期集中リハ加算は2019年度 302件、2020年度 369件と増加した。退院直後の集中的リハビリテーションを提供できた。
- ④ 訪問リハ終了者数は2019年度 49件、2020年度 77件であった。その内、通所系サービス移行者、生活目標達成者は16件：32%（2019年度）から39件：50%（2020年度）と増加し、シームレスなサービスが提供できた。

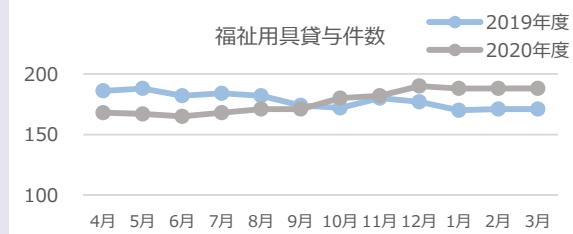
福祉用具レンタルステーション恵寿

■部門代表者

梅田 信一

■2020年度のトピックス

後期の件数を伸ばすことができた。



■事業報告

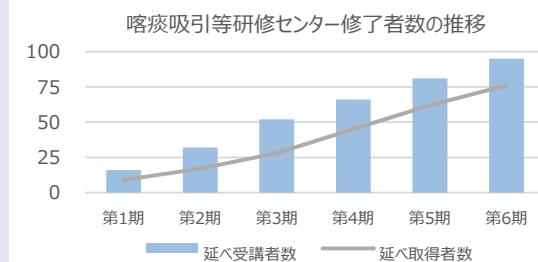
- ① 2020年度の貸与件数は、前期は2019年より落ち込んだが後期は増加した。紹介されるケアマネ事業所数も、昨年10件から12件に増加し、症例数も昨年7例から14例に増えた。
- ② 2020年度国から出された上限価格、平均価格を見直し、2021年度より価格変更することとし、ベッド、手すり、マットのセット価格も設定した。

喀痰吸引等研修センター

■部門代表者

吉田 茂和

■2020年度のトピックス



■事業報告

- ① 2017年度に開講してから、今年度で第6期を迎えるこれまでに延べ95名の基本研修修了生を輩出した。
- ② 内2020年度までに実地研修を含むすべての研修を修了し、修了証を発行した受講生は 76名にのぼった。

社会事業統括部門

■部門長

進藤 浩美

■2020年度のトピックス

今年度より、『めぐみフェア』を開始した。

めぐみフェア メイン商品

回数 月日

1	7月22日	Foot活サンダル、小松マテーレマスク、脳活アイス
2	8月27日	折りたたみ杖、杖おき、脳活アイス
3	9月30日	杖、4点杖、あゆみシユーズ
4	10月27日	シャワーキャリー、滑り止めマット、入浴剤
5	11月26日	ポータブルトイレ、入浴剤、保湿ローション
6	12月24日	車椅子、リハビリシユーズ、入浴剤、保湿ローション
7	2月17日	メワブライツサングラス、折りたたみ杖、杖ゴム
8	3月25日	シルバーカー、あゆみシユーズ、Foot活サンダル

■事業報告

- ① 医師会立七尾看護専門学校の経営協力のため、事務長、教員2名の出向を行っている。また、本院の医師、看護部、医療技術部門から、講師を派遣している。
(講師派遣費用は支援している。) 看護師確保のために修学資金制度を創っている。
- ② けいじゅデリカサプライセンターは、当法人と社会福祉法人徳充会の給食を1日5,000食作っている。これにより、各施設の非常時の食事の確保と生産性を上げることに貢献している。
- ③ 地域の人々の生活支援を行うために、オープンしたベンリーフ七尾店は3年目に入った。介護保険での住宅改修、ケアマネステーション恵寿とのコラボがまだ不十分である。
- ④ 医療福祉ショップめぐみもオープンから20年が経った。オープン当初より、法人にIDがある場合は3%引きを行っていたが、総額表示にあわせ、3%以上割引となるように価格を見直し、2021年度スタートの予定である。また、SDGsの取り組みとして、グルメプラザけいじゅの食品ロスを減らし、一人でも多くの職員に健康な食事として認定されたスマートミールを食べていただくために、ティクアウト販売に協力した。

社会事業統括部門

七尾看護専門学校

■事務長

山崎 茂弥

■2020年度のトピックス

2019年度と同人数37名が卒業生し、36名が国家試験に合格した。卒業生の就業先は能登地域の病院が23名（内 恵寿総合病院11名）、加賀地域の病院が6名（内 恵寿金沢病院1名）だった。

入学生の状況

	能登	加賀	富山県	福井県	他県	合計
2019	31	9	1	0	1	42
2020	21	10	5	0	7	42

卒業生の就業先

	能登	加賀	富山県	福井県	他県	病院以外	進学、その他	合計
2019	21 (11)	9 (3)	2	0	2	0	3	37
2020	23 (11)	6 (1)	0	1	3	1	3	37

■事業報告

- ① 出願者数は61名、受験者数は48名で、実際の新入生は37名と昨年より6名増やすことが出来た。出身別では、能登北部8、能登中部13、石川中央9、南加賀1と県内は31名だった。県外は6で、うち富山県が5だった。新入生のうち能登中部は35%だった。
- ② 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月14日～5月31日まで休校し、オンライン準備等、感染予防環境づくりなど、安心、安全な学校づくりに労力が必要だった。
- ③ 学生募集のため、7月、8月に感染を配慮した形でのオープンキャンパスを実施した。高校訪問は、断られることもあったが、実施した。また、進路ガイダンスに参加し、入試説明会も開催した。
- ④ 入学生確保のため、11月21日推薦入学試験を実施し、1月21日に一般・社会人ともに1回目の入学試験を行い、2月18にも入学試験を実施した。

ベンリー七尾店

■部門代表者

梅田 信一

■2020年度のトピックス

ベンリー七尾店は12月で開設から2年経過した。

作業件数は437件であり、前年比14%の増加となった。

	一般作業	ハウスメンテナンス	クリーニング	エアコン	水廻り	害虫駆除	アニチャ	その他	総計
2019年度	157	76	34	32	15	18	40	2	374
2020年度	199	75	36	34	33	25	24	11	437

■事業報告

- ① 外注割合は、2018年度12%、2019年度45%、2020年度は、51%と作業件数増に伴い増加している。外注割合の削減、ご利用者の利便性を図るために七尾市の一般廃棄物収集運搬業の申請を行い、許可を得た。
- ② リピート客が増加した。

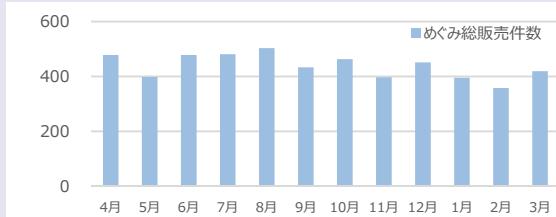
医療福祉ショップめぐみ

■部門代表者

梅田 信一

■2020年度のトピックス

めぐみの販売実績



■事業報告

- ① コロナ禍でマスクの販売が出来なくなつたが、本館のマスク自動販売機は、6月25日より販売を再開できた。また、感染防止グッズも販売した。
- ② 2020年7月よりめぐみフェアを毎月本院のシーサイドホールにて開催し、告知用のチラシ1,000部を配布した。
- ③ ローソン側に倉庫を改修し、5Sをはかつた。

徳充会

■部門代表者

今寺 忠造

■2020年度のトピックス

全体の延べ利用者件数は、約23万7,300件で、コロナの影響で平年並みの維持が困難であった。障がい者・高齢者の利用者件数についても、通所系・短期入所系の自肃・大雪等の自然災害も大きく影響した。外国人技能実習生2名、正規16名・非正規27名を採用。



■事業報告

- ① コロナ禍で「一步前へ！」をテーマに、各事業所がそれぞれの目標を掲げ、強みを活かし一致結束して取り組んだ。
- ② 障害者事業局：入所利用者は年々高齢化・重度化が進み、医療的ケアのニーズが高い。身体・知的・精神の3障がいに加え、発達障害、高次脳機能障害等を取り組んだ。通所利用者は日中活動・働くニーズが高く、機能訓練利用者は介護保険より、現サービスの継続を望んでいる。
- ③ 高齢者事業局：新しい価値観・ニーズに対応するため、Wi-Fi・タブレットの導入（面会・支援他）、Foot活の強化、脳トレ・ゲーム・DAMの有効活用、カルチャー教室、コロナ禍の看取り対応、イルミネーションの点灯等、時代の流れとニーズに対応する新しいチャレンジを行った。
- ④ 事務局：働き方改革（給与分析・待遇・外国人雇用）、職員教育の推進（資格習得支援・Web研修の開催等）、積極的な求人活動（外国人2名、正規16名・非正規25名採用）、コロナ対策の補助金申請（環境整備・衛生用品等）、徳充会BCMの策定を行った。
- ⑤ 地域貢献：コロナの影響で、従来の交流を中心としたものは、中止・自粛した。
- ⑥ コロナ：感染・クラスター予防に取り組み、継続中。

障がい者事業局

■部門代表者

今寺 忠造

■2020年度のトピックス

新型コロナ感染拡大・大雪等の自然災害の影響もあり、通所・短期入所の利用者数は若干減少した。一方入所系は外泊等の自粛により、利用者稼働率は現状維持・増加。コロナ禍で、3密を回避した新しい取り組みを推進・実行した。各事業所、高齢化・障がいの重度化が進んでいる。



■事業報告

- ① 「一步前へ！」を意識し、全事業所、コロナ禍での新しい日常への支援と感染予防に努めた。
- ② さいこうえんの障害者生活支援センター：地域活動支援センター、相談支援、障害者就業・生活支援センターの3事業はコロナの影響で件数低下。交流の自粛、3密対応。
- ③ セレーナ青山：現状維持。
- ④ 青山彩光苑リハビリテーションセンター：機能訓練は現状維持、就労移行支援定着率は全国トップレベル（2年連続）。
- ⑤ ワークセンター田鶴浜：洗濯事業は順調、ご利用者の高齢化。コロナの影響で作業量減少した（土産物の箱・食材等）。
- ⑥ 青山彩光苑ライフサポートセンター：コロナ対策（機械浴増設・オンライン面会の早期導入等）。環境工夫でご利用者個々人の活動を尊重する支援を実施した。
- ⑦ 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター：「一步前へ」を意識したQOLを高める体制つくりを目指した。3密回避のスポーツ活動、作業活動や創作活動に力を入れて支援した。
- ⑧ 石川県精育園：地域行事への参加は自粛・中止となつたが、全部貸切の旅行（フェリー・汽車）の企画、新しい生活様式への対応を考案した。自立ホームけいじゅでは、短期入所、相談支援キララ、居宅支援は現状維持をめざした。

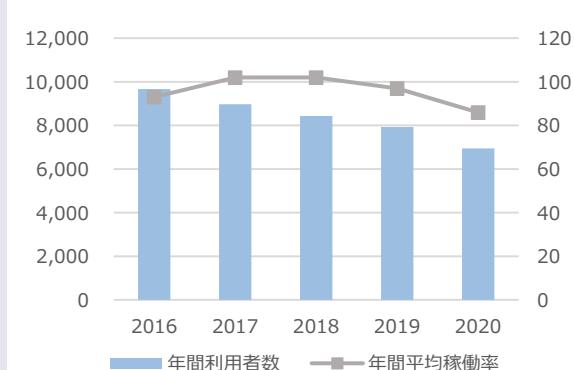
障がい者事業局 青山彩光苑 青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

久保 奈保

■2020年度のトピックス

就業事業において、全国で2割の事業所しか達成していない一般就労への移行率（就職後6ヶ月以上定着）を2年連続達成できた。一般企業への就職を目指す障がい者の資源として存在意義を發揮できた。



■事業報告

- ① 目標と達成度
入所稼働率（短期入所を含む）を70%以上とする
→56.8%であったため、達成度としては81.14%
機能訓練稼働率を105%以上とする
→85.6%であったため、達成度としては81.52%
就労移行支援稼働率を100%以上とする
→71.9%であったため、達成度としては71.9%
② 前年度に引き続き通所・入所を問わず機能訓練利用者の高齢化に伴う利用終了やサービス変更が目立った。
また利用相談についても通所利用希望者に比べ入所希望が少なく、希望があったとしても終の棲家としての要望が多く、利用者の希望と事業の目的にギャップが生じ、修正の必要性が高まっている。
③ 就労移行支援事業については、6月から新たな施設外就労先を確保し支援に取り組んでいる。また順調に一般就労への移行を進め6名の利用者が就職した。その結果一時的に8名定員のところ、登録者5名までに落ち込んだが、1月には登録者7名まで持ち直し現在は、8名登録となった。また4月就職内定者も3名いるが、新規利用相談もあり、4月以降も定員を割らずに開始できる予定である。

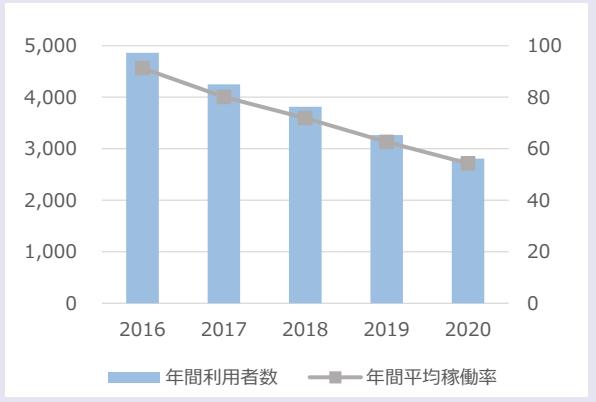
障がい者事業局 青山彩光苑 さいこうえんの障害者生活支援センター

■部門代表者

前田 奈津子

■2020年度のトピックス

新型コロナウイルス感染拡大予防に徹した1年であり、従来の活動の見直しを実施。外出や交流、飲食を伴う行事活動のほとんどを自粛した。また、3密対策のため環境を整備し、新たな作業場を創設した。



障がい者事業局 青山彩光苑 バリアフリーホーム セレーナ青山

■部門代表者

久保 奈保

■2020年度のトピックス

2020年4月は16床から開始し、2021年3月には18床の稼働となった。多少の入退居はみられたが、年間を通じて定員20名に対し、16~18名で推移し、大きな変化はみられない。



■事業報告

- ① 七尾市・中能登町からの委託を受け、地域活動支援センターⅠ型事業を実施している。地域で生活している障がい者が通所し日中活動を行っている。生活支援員3名を配置し主に生産（作業）活動や創作活動、レクリエーションなどを行った。例年実施していた季節行事や余暇活動などの外出企画は今年度は感染予防のため自粛した。また、同様に地域住民との交流も自粛している。4月・5月は緊急事態宣言発令に伴い、利用自粛するご利用者がいた。
- ② 相談支援事業（指定特定・指定一般・指定障害児）は、障がいのある人の様々な課題についての相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数 4,146件）。また、七尾市・中能登町における地域生活支援拠点等整備事業に取り組んだ。
- ③ 障害者就業・生活支援センター事業は障がい者・企業からの就職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数 3,292件、就職件数30件、職場実習研修12件）。

■事業報告

① 退居1名、新規入居者は3名であった。年間平均稼働率は前年比2%の上昇となった。

② 入居者の法人内サービス利用の内訳

※重複利用を含む

【障害者活動系】

リハビリテーションセンター：5名

ワークセンター田鶴浜：7名

障害者生活支援センター：1名

【生活支援系】

ローレイルハイツ恵寿（ホームヘルプ）：3名

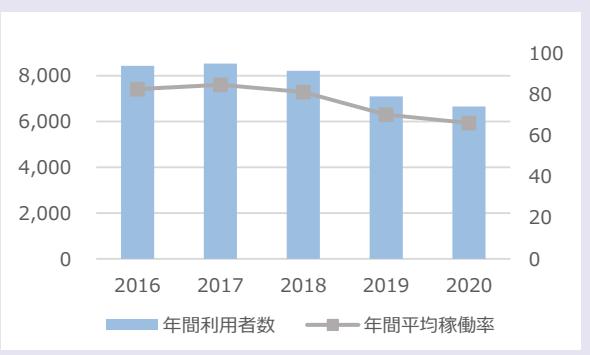
障がい者事業局 青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者

瀧野 利徳

■2020年度のトピックス

コロナ対策として、4月に東館浴室に機械浴を導入し、東西利用者の行き来を完全に分断した。また、5月にはオンライン面会を導入し、利用者と家族の交流機会を維持するとともに、面会や外出泊の制限とその解除をこまめに行つた。活動では、カラオケや太鼓など通常の活動に少しでも近づけるよう環境の工夫に努めてきた。



■事業報告

- ① 生活介護事業は、目標稼働率110%に対し114%で達成率は104%であった。施設入所支援事業の実績は、目標稼働率100%を同数値で達成した。短期入所事業は、目標稼働率70%に対し58.6%の実績で前年比83.7%の結果であった。短期入所事業については、実利用者数の減少は見られないものの長期利用者がなく、かつ緊急受け入れ事業での実績を期待したが、相談支援事業所からの依頼までには結びつかなかった。
- ② 施設の方向性として、入所対象を身体障がい者に限定し、地域における当施設の役割をより鮮明化した。また、入所利用者の入れ替えにより、入院者を減らし稼働率の向上を実現した。(98.9%⇒100.3%)
- ③ 業務の効率化として、①支援計画書の様式変更とこれに関する会議の見直し、②受診(精神疾患)方法の変更と記録の廃止、③機械浴導入による移動距離の短縮、④形骸化していた利用者朝礼の廃止などを実行した。
- ④ 利用者サービスとして、①個室料金の徴収を廃止、②必要とする全利用者への無償でのオムツ提供、③生活施設としての喫煙室の設置などコンプライアンスに基づく改善に取り組んだ。

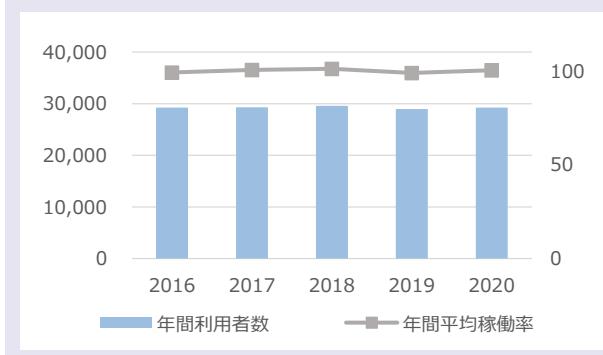
障がい者事業局 青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

細木 俊逸

■2020年度のトピックス

利用実績は、稼働率目標68%に対し、66%昨年対比4%減、延べ利用者数は6,659名で昨年より444名減となった。総事業活動収入は、ほぼ横ばいであり、授産事業に関しては順調に推移している。施設事業活動収入を増やすことが課題である。



■事業報告

- ① 2020年度について新規利用者は1名であった。退所者は2名であった。年明けの大雪の影響もあり稼働率は減少した。利用者の高齢化はすすんでいるが、新規利用者の獲得も目指していく。また、次年度は施設稼働日を増やすなどの工夫をして事業収入増を目指す。利用登録者は30名。今後も利用者確保について継続し取り組んでいく。
- ② 授産事業においては、行政からの委託業務も継続委託をうけており、安定収入となっている。洗濯事業においては順調に推移している。他事業においても予定通り進行し、授産事業の安定化に結び付いている。今後はコロナ禍においても安定して事業継続できるよう業務の見直しや創意工夫を行い進めていく。

障がい者事業局 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者

今寺 忠造

■2020年度のトピックス

- ①コロナ禍でご利用者の安全・安心を第一に、集団から個別プログラム等に変更し感染予防とクラスター防止に努めた。
- ②穴水総合病院と協力して終末期までの施設ケアを行った。
- ③継続してノーリフトを推進した。④のと里山空港に東京オリンピック・パラリンピック聖火トーチを見学に行った。



■事業報告

- ① 生活介護入所稼働率は99.7%、目標稼働率は99.0%であり、目標達成率は100.7%であった。
- ② 生活介護通所稼働率は88.0%、目標稼働率は98.0%であり、目標達成率は89.8%であった。
- ③ 施設入所稼働率は99.7%、目標稼働率は99.0%であり、目標達成率は100.7%であった。
- ④ 短期入所稼働率は67.7%、目標稼働率は90.0%であり、目標達成率は75.2%であった。
- ⑤ まとめ
今年度は周到な準備と実行をテーマに、利用者の生活の質(QOL)を高めるために、「一歩前へ」を意識した体制づくりをめざした。訓練場面でできることを生活の場面でできるようにすることやスポーツ活動、作業活動や創作活動に力を入れて支援を行った。コロナ禍、三密を避けた安全・安心をサービスを展開した。通所系は、能登北部のコロナの感染拡大・大雪等の影響もあり、利用者自身の利用自粛が見られた。今後も、感染症対応を行なながら、利用者一人ひとりに見合ったQOL向上のための支援を行っていく。

障がい者事業局 石川精育園・自立ホームけいじゅ

■部門代表者

今寺 忠造

■2020年度のトピックス

- コロナ禍において感染対策会議を週1回開催し、その都度フェーズごとに対応を徹底し予防に努めた。面会等の制限、地域交流の機会も中止となり、ご利用者の生活は一変した。行事は、船・電車を全部貸切の新しい旅行を実施した。新生活様式に則り楽しみある支援を考案し実施した。



■事業報告

- ① 利用者状況
精育園本体は4名が退所、3名が入所、計123名。グループホームは女性1名が退所、計19名。
- ② 事業報告
日中活動の活性化を目指しプログラムの充実を図ることを目標としていたが、コロナ禍により予定通りにいかなかつた。小集団での支援を用い、継続して行える日中活動の目標は達成することができた。創意工夫で利用者ニーズを反映できるメニューも増やし、活動の活性化につながった。
地域との交流の行事は中止したが、利用者・職員共に楽しめる行事を新生活様式を保ちながら実施することができ、利用者の満足度も高かった。
面会・外泊等は、能登北部で感染拡大もあり、状況をみながら自粛・制限をお願いしたが、オンライン等を用い家族との連絡等を密に取ることによりご理解をいただいた。従来の買い物等の外出も制限したが、3月より移動販売車を利用することで、園でおやつ等を自分で選択し購入することができるようになった。
研修等はWeb配信での講義が主になり、移動時間短縮等のメリットもあり、多くの研修に参加できた。

高齢者事業局

■部門代表者

吉田 茂和

■2020年度のトピックス

本年度は、年度当初から新型コロナウイルスの感染拡大に対する不安感が急増し、在宅サービスを中心にキャンセルの連絡が相次いだ。その後、徐々に冷静を取り戻してきたものの、通所事業・訪問事業などを中心に利用率が低下し、年間を通しての介護事業全体の利用者数減少につながった。



■事業報告

- ① エレガンテなぎの浦・アンジェリなぎの浦：特養では「利用者ニーズに応じたサービス提供」として、昨年度一部導入したフリーWi-Fiを全館完備。全事業でタブレットを活用し、個別支援やリモート面会、娯楽等を楽しんでいた。食への楽しみでは、看取り期の食事のワンスプーン提供を実施。寿司や有料メニューの提供にて日頃と違うメニューにご利用者も大変喜ばれ、食も進んでいた。Foot活プロジェクトでは、AYUMIEYEを活用することで、Foot活体操や自主訓練をするご利用者もあり、機能維持につながる取り組みとなっている。
- ② エレガンテたつるはま・もみの木苑：特養では入院が少なく高稼働を維持することができた。利用者の夢をかなえる「夢プロジェクト」を実施。腰痛予防対策にも取り組んだ。通所事業は新型コロナの影響があり苦戦。活動に対するポイント表彰制度「まんぱく大作戦」などを実施した。
- ③ ふれあいの里：独自のサービスメニュー「ふれあいの里モデル」の構築に向けた取り組みが評価され、月刊専門誌に取り上げられた。活動と参加を活性化させるため事業所内通貨フレの取り組みなども続けているが、新型コロナの影響などを受け、利用者獲得に苦しんだ。
- ④ ローレルハイツ恵寿：常におもてなしの気持ちで対応し、サ高住・ケアハウスともに高い入居率を維持した。冬季に実施したイルミネーションイベントは、コロナ禍の地域の心を癒し、多くのメディアにも取り上げられ喜ばれた。

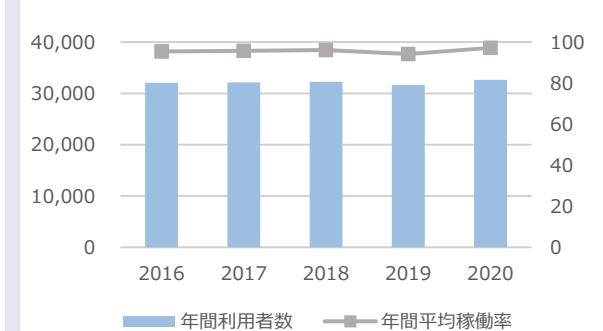
高齢者事業局 エレガンテなぎの浦・アンジェリなぎの浦

■部門代表者

江沢 恵太

■2020年度のトピックス

特養の今年度入院延べ日数が昨年度の約半数（1,470から730）に減少。退所から入所までの空床日数も昨年度の約半数（平均7.8から4.2）で稼働率が前年比103%であった。ケアハウスの年間稼働率目標（1日付）100%を達成。デイサービス、ショートステイは、新型コロナウイルスや大雪の影響で利用控え等があり、稼働率目標を大きく下回った。



■事業報告

- ① 「利用者ニーズに応じたサービス提供」として、昨年度一部導入したフリーWi-Fiを全館完備。全事業でタブレットを活用し、個別支援やリモート面会、娯楽等を楽しんでいた。食への楽しみでは、看取り期の食事のワンスプーン提供を実施。寿司や有料メニューの提供にて日頃と違うメニューにご利用者も大変喜ばれ、食も進んでいた。Foot活プロジェクトでは、AYUMIEYEを活用することで、Foot活体操や自主訓練をするご利用者もあり、機能維持につながる取り組みとなっている。
- ② 「質の高いサービスの追求」として、タブレットを活用し、体位変換やポジショニング、食事介助方法や姿勢等について写真や動画にてサービスの標準化に取り組んだ。
- ③ 「人財のスキルアップと育成」では、インドネシアより外国人技能実習生の受け入れを行い、介護技術の継承に取り組むことで、指導者のスキルアップにもつながっている。
- ④ 「サービスの革新」については、新型コロナウイルスの影響により、密を避けるため、勉強会や研修会が当初の予定通りに実施できなかった。今後は新しい方法で勉強会や研修等を行い、業務改善に取り組んでいく。
- ⑤ 「稼働実績」については、ベッドコントロールが順調に実施でき、空床期間の短縮につながっている。

高齢者事業局 エレガンテたつるはま・もみの木苑

■部門代表者
畠中 浩樹

■2020年度のトピックス

入所事業において、高稼働率を維持することができた。
平均稼働率96.5%(前年度比+0.6%)。通所事業において、稼働率の落ち込みも見られたが、新規利用者は前年度と同数近くの29名が利用開始に至った。



■事業報告

【エレガンテたつるはま】

- ① 新型コロナウイルス感染症対策が講じて、風邪等も流行することもなく入所者は健康的に生活することができた。結果、高稼働率を維持することができた。
- ② 利用者の夢をかなえる『夢プロジェクト』を7ケース実施。
- ③ 業務の見える化をはかる『ドキドキレポート』による報告は延べ35件。内容は、解除方法、問題提起、職員間の気づかいがあり、委員会、担当者間で検討を実施し、見える化の目的を達成できた。
- ④ 介護チーム（移乗）では移乗用ベルトの新たな活用方法の導入に取り組んだ。介護チーム（排せつ）では、尿取りの当て方の見直しに取り組み、結果尿漏れが減少しこ利用者の満足度が向上した。

【デイサービスセンターもみの木苑】

- ① Foot活プロジェクトの参加利用者13名。
- ② 活動（Foot活も含）や参加に応じてポイントを付与する表彰制度『まんぶく大作戦』を開始、50名のご利用者が参加。最多ポイント賞も含めて、16名のご利用者を表彰。
- ③ 施設内活動の充実。密を避けての足湯（温泉の無料宅配サービス）を実施。

高齢者事業局 ふれあいの里

■部門代表者
芳原 哲弥

■2020年度のトピックス

活動と参加を活性化させるために事業所内通貨フレを発行し様々な特典を設けることで多くの方々に楽しんでいただけた。カルチャー教室やイベントを毎日開催すると共に、社会参加活動にも積極的に取り組むことで、利用者や家族にも好評を得ることができた



■事業報告

① 目標と達成度

- 通所介護の年間稼働率目標は87%→実績77.5%で達成度は89%であった。
- コロナウイルスの蔓延による影響も大きく、年間通して70%台の稼働率に終始した。新規利用者の紹介率は前年度実績と同等の数字を維持できている。
- ふれあいの里独自のサービスメニュー「ふれあいの里モデル」の構築に向け全職員一丸で取り組んでおり、その取り組みが評価され通所事業を取り上げる月刊誌に掲載された。
- ② 訪問入浴は72件/月以上の提供を目標とする→実績67.3件で達成度は93.4%。
 - 新規受け入れは14名で前年度より2名減少したが、延べ利用人数は22件増加した。
 - 新規利用者の半数近くがターミナルケアの対象となる方々で、終末期の在宅生活を支援するべく、全てのケースを受け入れサービスを提供した。
 - ③ 配食サービスは配達エリアを縮小した。延べ利用人数は9,107名であった。

高齢者事業局 ローレルハイツ恵寿

■部門代表者

内田 かおり

■2020年度のトピックス

『さすが恵寿！さすがローレル！』を目指し、誰にでも、どこにでも、どんな場面でも、おもてなしすることを意識した。家族目線になる事で、職員は自然とおもてなし身についた。特に、イルミネーションイベントでは、職員一丸となり、地域の皆さんや医療従事者、入居者の皆さんに一瞬でも笑顔になって頂きたく最大のおもてなしを行った。



■事業報告

① 接遇・待遇でのさすがポイント

コロナで家族面会が制限された中で、家族に少しでも寄り添えるよう対応を徹底した。また、イルミネーションイベントではおもてなしの気持ちを持って実施し、大盛況だった。

② 安心のさすがポイント

看取り加算の取得にクリニックと連携し、3名取得した他、継続した加算はもれなく取得。コロナの状況に合わせて、家族に代わっての支援活動を行った。4月初旬には、早くマスクの配布、手洗いの徹底、外出自粛対応を行い、入居者・家族には安心していただけるようにした。

③ 安全のさすがポイント

「介護事故 0 に」の目標を「コロナ感染 0 に」に変更し、できることは素早く対応し、やれることはもれなく行っている。現時点では職員・入居者の感染は0名である。

④ 安定のさすがポイント

体験イベントやキャンペーンは開催できなかったが、大雨・大風・大雪の際、空室を地域の方・職員の一時避難用に利用した。

⑤ 職員のさすがポイント

コロナ禍において職員は、「どうしたらできるだろうか」を考えようになり、新しい生活スタイルを構築している。

事務局

■部門代表者

山下 賢

■2020年度のトピックス

2020年度における採用者数は45名、また退職者数は45名で差し引き+0名であった。期首の職員総数は464名。



■事業報告

① 同一労働同一賃金に向けた対応

② 給与改定に向けた賃金分析の実施

③ 外国人労働者受け入れ（インドネシア人2名）

④ 従来の待遇改善交付金に加え、特別待遇改善交付金を介護職員等に手当金を支給。

⑤ 青山彩光苑ライフサポートセンター個室化への取り組み

⑥ 補助金

a) 社会福祉施設等施設整備費補助金

（青山彩光苑ライフサポートセンター）

b) 介護施設ICT・IoT導入促進事業費補助金

c) 自動車事故対策費補助金

「在宅生活支援環境整備事業」

d) 石川県新型コロナウイルス感染症

緊急包括支援事業

・慰労金支給事業

・感染対策支援事業

事務局 徳充会 総務部

■部門代表者
畠中 浩樹

■ 2020年度のトピックス

- ①給与規定の見直しのため、給与分析を実施。
- ②徳充会BCMの策定。
- ③外国人技能実習生2名の採用。
- ④登録ボランティアである74の団体、個人に日ごろの感謝の気持ちを込めて、ワークセンター田鶴浜産のシクラメンを贈呈。
- ⑤オンラインを活用した求人活動。

■事業報告

- ① 給与規定の見直しに向けて、2ヶ年計画の1年目として、給与分析を実施。また、働き方改革に向けた正規職員と非正規職員の待遇見直しを実施した。
- ② 外国人技能実習生の採用にあたり、実習事業所であるエレガンテなぎの浦への後方支援（入職時オリエンテーションおよび安心した生活を送るための家庭指導、日本語教育）を実施した。

事務局 徳充会 経営企画部

■部門代表者
松下 清寛

■ 2020年度のトピックス

- ① 新たな事業・取組みへの提案
老朽化施設の基盤整備の提案（青山彩光苑ライフ個室化計画）
- ② 新型コロナウイルス感染症への対策：感染症予防の為の環境整備や衛生用品の備蓄等（補助事業活用）

■事業報告

- ① 会計・請求業務
- ② 補助金申請
- ③ コスト増への対応（省電化、委託料等見直し）
- ④ 新規事業・取り組みの提案
- ⑤ 理事会・評議員会開催（6月、3月）
- ⑥ 法人登記手続き
- ⑦ 指導監査の対応（石川県実地監査及び、書面監査）

教育研修委員会

■部門代表者
畠中 浩樹

■ 2020年度のトピックス

日程	内容
4月1日	新人（上期）職員研修
5-6月	接遇研修（動画配信）
8月7日	フォローアップ研修
10月7、28日	アンガーマネジメント研修（聴講+動画配信）
10月	ハラスマント研修（動画配信）
11月6日	新人（下期）職員研修
11-1月	介護福祉士受験対策講座
1月22日	リスクマネジメント研修（動画配信）

■事業報告

- ① 2019年度より体系化した役職者研修（2年間の必須科目）が修了
- ② 新人職員研修を年2回（上期、下期）への実施に変更
- ③ 福利厚生委員会と共同で「徳充会確定拠出年金制度運用商品セミナー」の動画配信実施

福利厚生委員会

■委員長
三山 薫

■ 2020年度のトピックス

2020年度は感染予防のためメールにて委員会を2回開催した。新型コロナウイルス感染の影響もあり、例年実施していた旅行、イベントなどは中止となる。委員会での集まりも感染拡大予防の為中止とし、メールでのやり取りを行った。第1回の議題ではコロナ禍でも【福利厚生委員会としてできる事はないか、また、仮に終息した際の企画】を委員から意見を募った。

■事業報告

- ① 新型コロナウイルス終息に目処が立たず、全ての活動を見合わせることとなる。
- ② 例年、行事費として運用していた助成金1,500円の支給はなしとし、職員が安心して働けるようにマスクなどの感染対応の物品を購入。
- ③ 課題として、助成金の扱いを早めに決め、旅行など難しそうな場合は、代替案を早い段階から提案し、新たな方法で活動を実施していく必要がある。

事例研究大会

■委員長

武田 京介

■2020年度のトピックス

大会テーマは「一歩前へ！」とし社会全体の情勢を考慮し現状に合わせてサブテーマを「新たな時代に沿った取り組み」とした。発表大会は2021年2月27日(土)に開催を予定設定していたが、新型コロナウイルス発生、感染及び拡大防止等により大会開催は中止とし、紙面発表の形式で実施した。

■事業報告

- ① 提出事例は36事例としテーマに沿った事例作成を行うことで新型コロナウイルス発生の中、自粛中でも社会全体の情勢を考慮し現状に合わせた支援が行われたことが分かり、各施設で今後の活動や支援の参考になったと思われる。
- ② 紙面発表を行うと質疑応答ができないため、紙面発表の場合での事例発表の方法について課題が残る。